

リノボナ

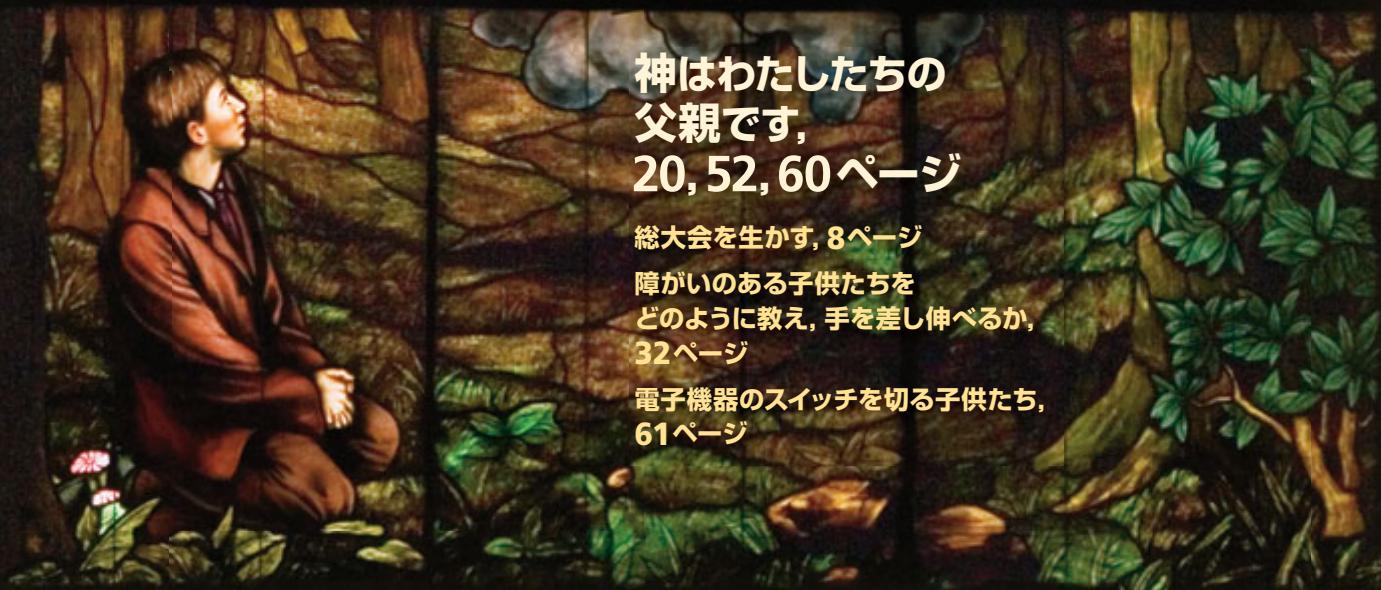


神はわたしたちの
父親です,
20, 52, 60ページ

総大会を生かす, 8ページ

障がいのある子供たちを
どのように教え, 手を差し伸べるか,
32ページ

電子機器のスイッチを切る子供たち,
61ページ





教会歴史美術館の厚意により掲載

「光の中を歩く方法を教えてください」 ゴドフレド・オリグ画

この絵には、神殿の光の中へ進んで行く家族が歩む道が描かれています。

下の方には、暗闇の中にいる家族がすぐに宣教師に会う様子が描かれています。

上の方には、家族が祈り、福音が真実であることを知り、バプテスマと確認に備えられる様子が描かれています。

家族は、神殿に顔を向けています。やがて彼らは神殿で、永遠の命のために必要な聖約を交わすのです。

「暗闇の中を歩いていた人々は大きな光を見た。……〔彼ら〕のうえに光がさした。」(2 ニーファイ 19:2)



リアホナ 2012年2月号

32

メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
彼らに祈るように勧めなさい
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
家庭の守り手

特 集

- 14 神への信仰があるので、
わたしは決して独りではない
ドナ・ホレンベック
数年ぶりに孤独だと感じました。
ひざまずいて祈ること以外に慰め
を得ることはできませんでした。

表 紙

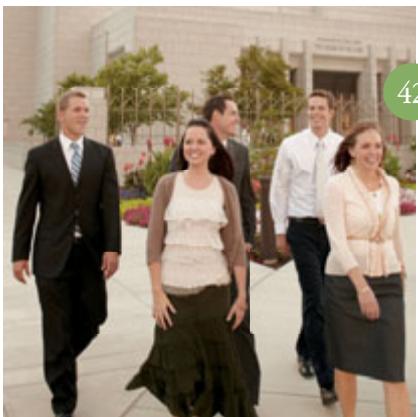
「最初の示現」アメリカ合衆国ユタ州、ブリガムシティーのブリガムシティー第3ワードの建物の中にあるステンドグラス。

- 16 「わたしが選ぶところの断食は」
アレクサンドリア・シュルツ
伝道中に、アギラー家族の生活
で断食の祝福がもたらされるの
を目の当たりにしました。
- 20 御父に関する教義
クエンティン・L・クック長老
父なる神〔は〕宇宙の至高の統治
者であり、わたしたちが靈として
存在するようにされた力であり、
わたしたちに希望と可能性を与え
る計画を立てられた御方で〔す〕。
- 26 御言葉に飢え渴く
エクアドルの人々
ジョシュア・J・パーキー
奉仕とフェローシップと改宗によっ
て、これらの会員たちはどのように
喜びを見いだしているでしょうか。

- 32 この子をどのように助けましょうか
ダニエーレ・ファーガソン
認知障がいのある初等協会の子
供たちを助けるための7つの原則

シリーズ

- 8 10月の大会ノート
- 11 教会での奉仕——
召しに伴う批判に対処する
匿名
- 12 わたしたちが信じていること——
主はわたしたちに
健康の律法をお与えになった
- 38 末日聖徒の声
- 74 教会のニュース
- 79 家庭のタペのためのアイデア
- 80 また会う日まで——
天の父母を敬い、模範に従う
スコット・バン・カンペーン



42

42 わたしたちに対する指導者の言葉 ——これは皆さんの業です

ジュリー・B・ベック

今日のヤングアダルトは、神殿と家族歴史の業に彼らならではの方法で参加できます。

45 生活の中の福音 ——家族歴史への挑戦

クリスティーナ・アルベアール



52



46 質疑応答

「わたしの両親は離婚しました。時々、二人からそれぞれ相反する助言を受けることがあるのですが、どうしたらよいでしょうか。」

48 主の深い憐れみ

デビッド・A・ベドナー長老
あなたは、主の深い憐れみ——強さ、守り、確信、導き、愛にあふれた優しさなどの靈的な賜物——を受けることができます。

52 天の御父

末日聖徒は天の御父について獨特の知識を持っています。そしてそのことは、わたしたちに大きな影響を与えてくれます。

54 高い標準の歌声

ヒラリー・ワトキンス・レモン
ポルトガル出身の若い男性、ゲルソン・サントスは、スポットライトを浴びる機会にも、福音の標準を擁護する機会にも恵まれています。

55 わたしたちのスペース

56 波にさらわれない

アダム・C・オルソン
純潔の律法は、靈的なガードレールのようだと、トンガ出身の若い女性サアネは言います。

58 伝道地から——

水のないフォント
シオサイア・ナエアタ・ジュニア



66

60 とくべつな しょうにん—— 天の おん父とは どなたのこと でしょうか ボイド・K・パッカー会長

61 コンセントを抜く

アニー・ビアー
電子機器のスイッチを切り、そのほかの大切な活動をするためのヒント

62 わたしたちのページ

63 すばらしい考え方

64 しようとこうかいを かていでも ——せいぎを えらぶと しゅくふくを うけます

66 安全の ための いのり

スエリ・デ・アキノ
海辺まで泳ごうとしましたが、すでに潮が満ちてきました。わたしは必死で水から出ようとした。

68 幸せを運ぶバレンタイン!

リチャード・M・ロムニー
バレンタインはイエス・キリストの御名を受け、主がなさるような生き方をしようと努力しました。

70 ちいさな おともだちへ

81 モルモン書に 出てくる
じんぶつなどの 絵

リアホナ 2012年2月号
第14巻2号(10482 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会:トマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アーリング、ティーター・F・ワクトルフ

十二使徒定員会:ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーカス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホーランド、デビッド・A・ペドナー、ケンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン

編集長:ポール・B・バイバー

顧問:キース・R・エドワーズ、クリストフェル・ゴールデン・ジュニア、ペア・G・マーク

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター:ビンセント・A・ボーン

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オルソン

共同編集者:スザン・パレット、ライアン・カー

編集スタッフ:ブリタニー・ビーティー、デビッド・A・エドワーズ、

マシュー・D・フリットン、ラーレン・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニファー・マディー、リア・マクラハーン、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーグ、ジョシュア・J・パーキー、チャド・E・ファレス、ジャン・ビンボロー、ポール・パンデンバーグ、マリッサ・A・ウェイデンソーン、メリッサ・ゼンテノ

実務運営アートディレクター:J・スコット・クヌーセン

アートディレクター:スコット・パン・カンパン

制作主幹:ジェーン・アン・ビーターズ

主任デザイナー:C・キンポール・ボット、コリーン・ヒンクレー、エリック・P・ジョンソン、スコット・M・ムーア

制作スタッフ:コレット・スベカー・オース、ハワード・G・ブラウン、ジュー

リー・バーテット、レジナルド・J・クリステンセン、キム・フェンスター・マ

カー、ブライアン・W・ギュキ、キャスリーン・ハワード、テニス・カービー、

ギニー・J・ニルソン

製版:ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター:クレーヴ・K・セドウイック

配送ディレクター:エバ・ラーセン

日本語版翻訳課長代理:藤谷繁樹

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替

(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへお送金いただければ、直接郵

送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ

〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6 / 末日聖徒イエス・

キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)

普通号/大会号 120円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

電子メール : liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語、アルメニア語、ビスマラ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブア語、中国語(簡体字)、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィジー語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、イングリッシュ語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、マダガスカル語、マーシャル語、モンゴル語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア語、スペイン語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ペトナム語(発行頻度は言語により異なります)。

©2012 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール —— cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

February 2012 Vol. 36 No. 2 LIAHONA (USPS 311-480)
English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

成人

32ページの記事には、認知障がいを持つ子供たちを教える方法が提案されています。教会のウェブサイト lds.org/disability [英語] では、様々な種類の障がいと、障がいのある様々な年齢の人々を助ける方法を説明しています。

エクアドルのオレリヤーナ支部の忠実な会員たちについての記事を読んで(26ページ参照), liahona.lds.org にアクセスして彼らの写真をご覧ください。



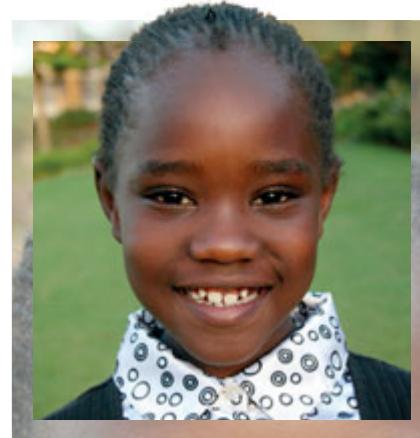
青少年

波にさらわれないように人々を守るガードレールのように、標準はわたしたちを安全に守ってくれると、トンガ出身の若い女性サナは言います(56ページ参照)。liahona.lds.org にアクセスすれば、アサネの写真と、美しいけれども危険なマップアバエアの潮吹き穴の写真を見るることができます。



こども

68ページを開いて、ケニヤ出身のタインの記事を読んでください。liahona.lds.org にアクセスすれば、タインの写真とケニヤの美しい自然の写真を見ることができます。



今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

愛, 25, 68

什分の一, 40

イエス・キリスト, 41, 80

祝福, 40, 48, 72

一致, 26

純潔, 56

祈り, 4, 46, 66, 70

障がい, 32

教え, 32

初等協会, 32

音楽, 54

信仰, 14

改宗・改心, 38

神殿, 41, 42

家族, 20, 25, 46, 80

救いの計画, 20, 39

家族歴史, 42, 45

スミス, ジョセフ, 52

神の性質, 14, 20, 25, 52, 80

総大会, 8

希望, 55

断食, 16

親しい交わり, 26

知恵の言葉, 12

従順, 55, 64

伝道活動, 26, 54

天の御父, 14, 20, 25, 52,

60, 66, 70, 80

徳, 55, 56

バプテスマ, 58

標準, 54, 56

深い縁み, 48

ふさわしさ, 41

奉仕, 26

召し, 11, 26, 32

メディア, 61

模範, 54

モルモン書, 38

喜び, 26

離婚, 46

彼らに祈るように 勧めなさい

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・
アイリング管長



幼

いころ、両親は模範によってわたしに祈るように教えてくれました。わたしは最初、天の御父が遠く離れた所におられる様子を思い浮かべていました。しかし成長とともに、祈るときに感じることが変わりました。すぐそばに、明るい光に包まれて、わたしのことをすべて御存じの天の御父がおられる様子が思い浮かぶようになったのです。

その変化が訪れたのは、ジョセフ・スミスの語ったことが真実であるという確かな証を得たときでした。ジョセフは1820年にニューヨーク州マンチェスターで経験したことについて、次のように報告しています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」(ジョセフ・スミス—歴史 1:16 – 17)

あの美しい春の日、天の御父は聖なる森におられました。ジョセフの名をお呼びになりました。そして復活した世の救い主を、御自分の「愛する子」であると紹介されました。皆さんのがいつ、どこで祈ろうとも、その栄光に満ちた出来事が現実のものであるという証は、皆さんにとって祝福となるでしょう。

わたしたちが祈る御父は、御自分の愛する御子によってもろもろの世界を創造された栄えある神です。ジョセフの祈りを聞かれたようにわたしたちの祈りを聞いてくださいり、わたしたちが御前^{みまえ}で祈っているかのように、はっきりとお聞きになることができます。御父は御子を救い主として与えるほどにわたしたちを愛してくださっています。その贈り物によつて、わたしたちが不死不滅と永遠の命を得られるようにしてくださったのです。そして御父はわたしたちに、御子の

^{みな}御名によって祈ることを通して、この世にあって望むときにつつでも御父と語る機会を与えてくださっています。

末日聖徒イエス・キリスト教会の神権者には、「各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように……勧める」という神聖な務めがあります(教義と聖約20:47、強調付加)。

祈るように人に勧める方法はたくさんあります。例えば、神はわたしたちに常に祈るようにお命じになっていると証することができます。あるいは、聖文や自分自身の経験から、祈って感謝したり、懇願したり、問い合わせたりしたときに授けられた祝福の例を紹介することもできます。一例を挙げれば、わたしは天の御父が祈りにこたえてくださることを知っていると証することができます。わたしはこれまでに、自分の思いに告げられる言葉から導きと慰めを受けてきました。そしてそれらの言葉が神からのものであると、御靈^{みたま}によって知っています。

預言者ジョセフ・スミスもそのような経験をしており、皆さんも同様の経験をすることができます。ジョセフは心からの祈りに対して次のような答えを受けました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。」

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。」(教義と聖約 121:7 – 8)

それは愛にあふれた御父が、深い苦惱の中にある忠実な息子にお与えになった啓示でした。神のすべての子供は、祈りによって神と語ることができます。謙遜な祈りへの答えとともに感じる愛と光ほど、祈るようにわたしを力強く促してくれたものはありません。

わたしたちは神の戒めを守ることによってその戒めについての証を得ます(ヨハネ 7:17 参照)。このことは、声に出してもひそかにも常に祈りなさいという戒めにも当てはまります。わたしは皆さんの教師として、また友人として約束します。神は皆さんの祈りにこたえてくださり、皆さんは聖靈の力によって、その答えが神からのものであると自分自身で知ることができるでしょう。■



このメッセージから 教える

- ・「写真や絵はレッスンの主要点を強調〔する〕のに役立つ手段である。」(『教師、その大いなる召し』175)
ジョセフ・スマスまたは最初の示現の絵を見せてください。ジョセフ・スマスが祈りを通して経験したことについて話し合います。アイリング管長のように「すぐそばに……天の御父がおられる様子」を思い描いたなら、祈りがどのようにもっと意義深いものとなるでしょうか。
- ・アイリング管長が勧めてい
るよう、祈りについて証
するか、祈ったことによって
受けた祝福について話す
か、祈りについての聖句を
紹介するとよいでしょう。

祈りの力

オースティン・C

祈りは、わたしたちが天のお父様とつながり、話し、天父から慰めを受けるため、最も偉大で大切な方法です。

ある晩祈っているときに、わたしの家族にとって必要なことや、わたしが感謝していること、そして悔い改める必要のある点について考えました。祈りを終えると

すぐに、わたしを自分の目標からいとも簡単に遠ざけてしまうたくさんのこの世のものについて考えてしまいました。

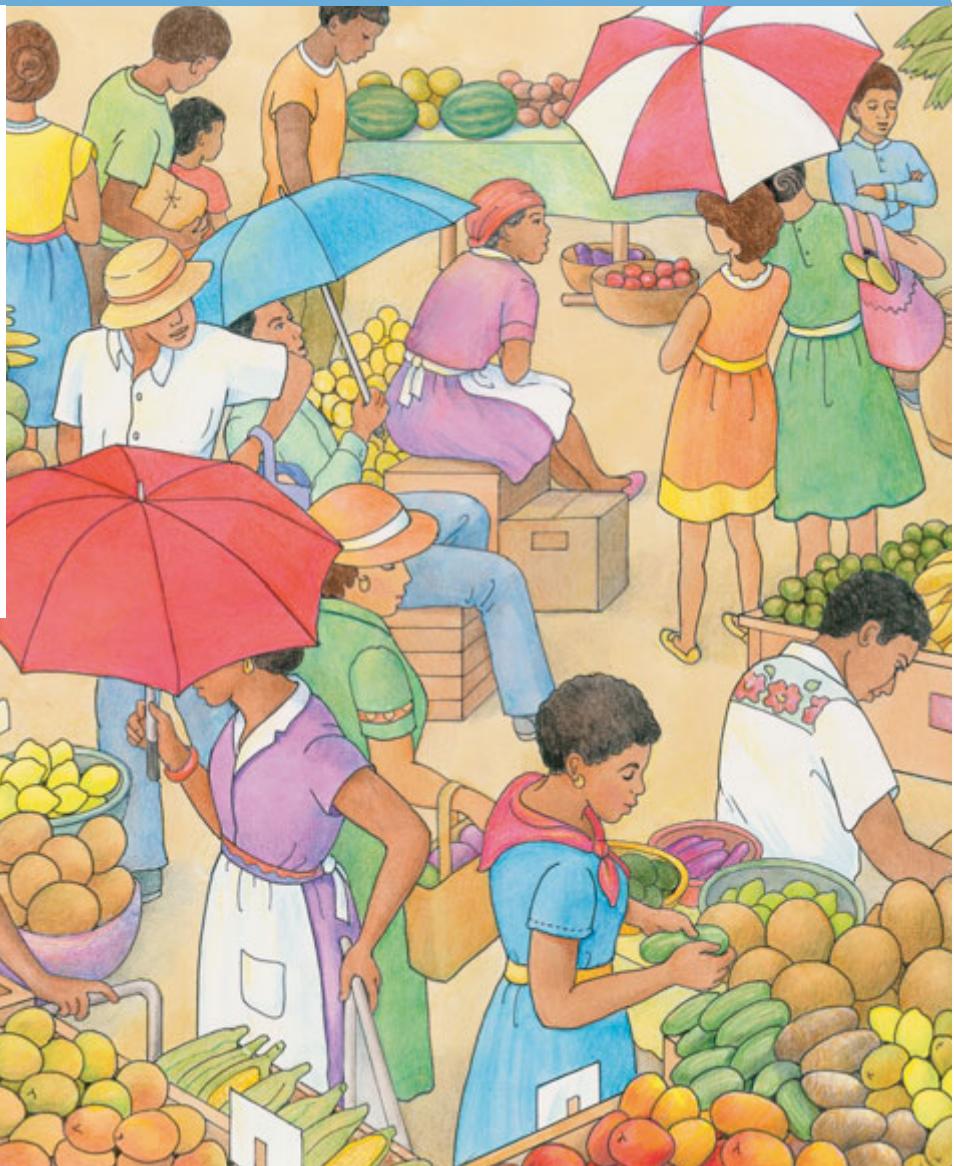
でも祈っている間は、心からへりくだつて祈るなら重荷は軽くなり、罪は清められ、疑問は答えられると感じます。祈りの言葉を口にしている間は、神様がとても

近くにおられるように感じます。祈るときに、神様の目から見てわたしたちが皆とても大切であることを知ることができます。祈りはわたしたちができる中で最も力強く、大切なことであることを証します。

こども

わたしが いのるとき、
天の お父さまは
聞いてくださいます

アイリングかんちょうは、天の お父さまは「わたしたちの いのりを 聞いてくださいり、わたしたちが みまえで いのっているかのように、はっきりと お聞きになることが できます」と言っています。わたしたちが どこにいても、まわりで どんなことが おこっていても、天の お父さまには わたしたちの いのりが 聞こえます。この 絵の 中に いのっている子どもが います。さあ、どこでしょう。



この資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

信仰・家族・扶助



家庭の守り手

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910年 - 2008年）は1995年の中央扶助協会集会で「家族——世界への宣言」を発表したとき、次のように述べています。「皆さんは家庭の守り手です。子供たちの生みの母です。子供たちを養い育て、生活の習慣を教え込むのは皆さんです。神の息子、娘を養い育てるほど神に近い仕事はありません。」¹

それから17年近くにわたって、この宣言は、わたしたちの最も重要な責任の中心にあるのは家族と家庭を強めることであるということを力強く教えてきました。それはわたしたちが現在どのような状況にあろうと同じです。現在中央扶助協会会长会第二顧問を務めているバーバラ・トンプソンは、ヒンクレー大管長が最初に宣言を読み上げたとき、ソルトレークタバナカルにいました。トンプソン姉妹は次のように回想しています。「すばらしい集会でした。メッセージの重要性を実感しました。また、そのときこのように考えました。『これは親に対するすばらしい導きであると同時に、大きな責任でもある』と。また、自分は結婚していないし、子供もいないから、自分にあまり関係がないと、一瞬考えました。しかし、すぐに考え直して『でもやはり自分にも関係がある。わたしは家族の一員だ。娘であり、姉であり、おばであり、いとこであり、めいであり、孫娘なのだ。わたしにも責任があり、祝福もある。なぜなら、わたしも家族の一員なのだから。たとえ家族の中で生きているのがわたしだけ



だとしても、それでも神の家族の一員であり、ほかの家族を強めるのを助ける責任がある』と考えました。」

幸いなことに、わたしたちは自分たちの務めを独りで果たすわけではありません。トンプソン姉妹は次のように述べています。「家族を強めるうえで最も大きな助けになるのが、キリストの教義を知り、それに従い、主に頼って助けを求めることです。」²

聖文から

箴言 22:6; 1ニーファイ 1:1; 2ニーファイ 25:26; アルマ 56:46 – 48; 教義と聖約 93:40

何ができるでしょうか？

- 自分が担当している姉妹たちが家族を強められるように、どのような助けができるでしょうか？
- どうすれば自分の家族に義にかなった影響を及ぼせるでしょうか？

10月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのである〔る。〕……わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

2011年10月の総大会を研究するときに、このページ（また、次回以降の機関誌に掲載される「大会ノート」のページ）を使って、生ける預言者と使徒たちの最新の教えを学び、生活に取り入れることができます。

大会で話された逸話

人生を変える書物

「モルモン書はほかのどの書物よりも、皆さんを神に近づけてくれます。人生を好転させてくれます。わたしの伝道時代の同僚がしたことを皆さんにも勧めます。この同僚は10代のころ、家出をしました。いっそうの幸せを探し求めて旅をしたその期間、彼はある箱を持ち歩いていました。その箱に、だれかがそっとモルモン書を入れました。

歳月が過ぎました。彼は世界中を転々としました。孤独で不幸せだったある日、その箱が目に留まりました。これまで携えてきたものがたくさん入っています。箱のいちばん奥に、モルモン書があることに気づきました。彼はその書物の中の約束を読み、試してみました。それが実であることが分かりました。その証は彼の人生を変えました。たわいない夢に勝る幸せを見つけたのです。

皆さんのモルモン書は、日々の責任や活動に皆さんが気を取られているうちにわきに追いやられているかもしれません。モルモン書を頻繁に深く研究するよう強く勧めます。モルモン書には、イエス・キリストの完全な福音があります。そして、イエス・キリストこそが、神のみもとに帰るただ一つの道なのです。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長
『証人』『リアホナ』2011年11月号、71

彼は

モルモン書が

あることに

気づきました。

彼は

その書物の中の

約束を読み、

試してみました。

それが

真実であることが

分かりました。

考えるための質問――

- 日常生活のどのようなものが、あなたの視界からモルモン書を隠しているでしょうか。
- モルモン書の研究を改善するために何ができるでしょうか。
- モルモン書のどの教えが、あなたの人生を好転させてくれましたか。

あなたの考えを日記に書くか、ほかの人と話し合ってみてください。



そのほかの資料:LDS.orgの“Study by Topic”（テーマ別に学ぶ）の“Book of Mormon”（英語）。タッド・R・カリスター「モルモン書——神からの書物」『リアホナ』2011年74。『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』17-28, 103-114

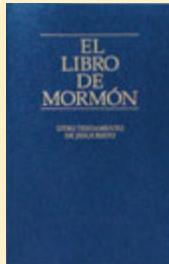
conference.lds.orgにアクセスすれば、総大会の説教を読んだり、見たり、聞いたりすることができます。



教会の女性たちへ

「**皆**さんには」自分では考えられないような行く末が待っています。引き続き信仰と個人の義を**増し加えてください**。回復されたイエス・キリストの福音を生活様式に**受け入れてください**。この偉大な真実の教会に活発であるという**賜物を大切にしてください**。扶助協会という祝福された組織で奉仕するという**賜物を大事にしてください**。家庭と家族を引き続き**堅固に保ってください**。皆さんの助けと主の助けを必要としている人を探し出し、助けてください。

大管長会第二顧問 ディーター・F・ウーケトドルフ管長
「忘れな草」「リアホナ」2011年11月号、123、強調付加



預言者の約束

「モルモン書が皆さん的人格や力に影響を及ぼすことは確かです。この書物に出てくる教義と雄々しい模範は、皆さんに勇気と導きと自信を与えてくれることでしょう。」

イエス・キリストの御名と福音を宣べ伝えている宣教師は皆、毎日モルモン書の言葉をよく味わうことによって祝福を受けます。救い主の証を子供の心に伝えようと苦労している親は、モルモン書の言葉と影響力を家庭と家族全員の生活にもたらす方法を探し求めるとき、導きを受けるでしょう。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長
「証人」「リアホナ」2011年11月号、69



中央神殿参入者支援基金

2011年10月の総大会で、トマス・S・モンソン大管長は中央神殿参入者支援基金の利用について語りました。「この基金は、神殿に参入する機会を待ち望みながらも、神殿に参入することができない人々に、1度の参入ができるよ

うにするものです。」 ビショップや支部会長に渡している通常の献金用紙に情報を記入すれば、この基金に献金することができます。¹

注

1. トマス・S・モンソン「再びともに集い」「リアホナ」2011年11月号、5 参照



自分で知る

「イエス・キリストは、確かに神の独り子、神の愛子です。主は確かにわたしたちの創造主であり、世の光であり、罪と死からわたしたちを救ってくださる救い主です。これが地上における最も大切な知識であり、わたしが自分で知ったように皆さんも自分でそのことを知ることができます。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オーツ長老
「イエスの教え」『リアホナ』2011年11月号、93



あなたのための 答え

どこの大会でも預言者や使徒は、教員が抱きそうな疑問に対して靈感に満ちた答えを与えてくれます。大会号を読んだり、conference.lds.org を訪れたりして、以下の質問に対する答えを見つけてください。

- わたしたちは「聖約の子」であるとは、どんな意味でしょうか。ラッセル・M・ネルソン「聖約」86 参照
- 善良な人に悪い出来事が起こるのはなぜでしょうか。ロバート・D・ヘイルズ「主を待ち望む——みこころが行われますように」71、クエンティン・L・クック「うたえぬ歌をも」104 参照
- イエス・キリストについて教えてくれる書物としてすでに聖書があるのに、なぜモルモン書が必要なのでしょうか。タッド・R・カリスター「モルモン書——神からの書物」74 参照
- 苦しみと闘っているときに、何をしたらよいかどうすれば分かるでしょうか。バーバラ・トンプソン「個人の啓示と証」9 参照

学習コナー

1度以上

2011年10月の総大会で、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は「聖文の力」という話をしました。その中で長老は、聖文を暗記し深く考えることが「聖霊から啓示と導きと靈感を受ける扉の鍵となる」と述べました(6ページ)。

以下の3つの聖句を暗記してみてください。これらは、2011年10月の総大会で3度以上引用されました。

モーサヤ 2:17¹

モロナイ 7:47²

1テモテ 4:12³

注

1. ホセ・L・アロンソ「正しいことを正しいときに遅れずに行う」14；ディーター・F・ウークトドルフ「あなたは御父にとって大切な存在です」20；henry・B・アイリング「証人」68 参照
2. リチャード・G・スコット「聖文の力」8；henry・B・アイリング「証人」68；シルビア・H・オールレッド「愛はいつまでも絶えることがない」114
3. L・トム・ベリー「完全な愛は恐れを取り除く」43；キース・B・マクマリン「アロン神権の力」47；henry・B・アイリング「神権に対する備え——『君の助けが必要なんだ』」58

召しに伴う批判に 対処する

匿 名

聖

職者のいない教会には興味深い祝福と試練があります。つまり、お互いに忍耐し合い、自分自身にも忍耐して、学び成長しながら召しを果たさなければならぬのです。受けている召しにかかわる、慎重に扱うべき難しい問題が発生しました。複数のワード会員に関する問題でもありました。わたしは知恵を絞ってその問題に取り組み、つらかったけれどもどうにか乗り越えたと思っていました。

しかし、そうではありませんでした。処理の仕方に賛同しない人もいたのです。その結果、大きな議論が巻き起こりました。わたしのやり方を支持してくれた人もいましたが、とんでもない間違いだと考える人もいました。わたしは落胆しましたが、最善を尽くしたので、気にしそぎないように努めました。

しかし、それから間もなくして、わたしは解任されたのです。そのときのショックはほんとうに大変なものでした。もちろん、教会の召しがほんの一時的なものだということは分かつていました。しかし、後味の悪さを感じていたころだったので、わたしの不手際が原因で指導者から責められ、罰を受けているような気がしました。

人々の視線をかつてないほどにきつく感じました。ワードのだれとでも、ためらうことなく、顔を合わせられるかどうか自信がありませんでした。そのようなわけで、解任された翌週、わたしは教会に行きませんでした。その翌週も、またその翌週も行きませ

んでした。教会に行かない時期が長くなればなるほど、教会に戻るのが難しく思えました。

しばらくたってから、わたしは何が起こったのか考え始めました。そして、つらい状況ではあるけれども、聖約を破るようなことがあってはならないということに気づきました。教会は真実だからです。

あの召しを果たすうえで、あの状況でのわたしの対処は適切だったかもしれません、不適切だったのかもしれません。実は、わたしたちのだれもが学んでいますし、間違いを犯すのです。

これを認めるのはつらいことでしたが、恐らく、大局的に見れば、だれが正しく、だれが間違っているかということはそれほど大切ではなかったのです。大切なのは、聖約を守るかどうかだったのです。わたしが教会に出席し、聖餐会で聖約を新たにし、奉仕を続けることが、わたしにとっても、家族にとっても大切だったのです。また神権の権能にどのように向き合うかが大切だったのです。

わたしは教会に戻りました。それからしばらくして、わたしは別の召しを受けました。その召しや、その後に受けた召しを通じて、わたしは自分の行為をかつて批判した人々のうちの何人かに奉仕しなければなりませんでした。それは難しいことでした。しかし、そのような人たちの意見に左右されることなく、教会活動からもたらされる祝福にあずかっていることを喜んでいます。■



お互いを好意的に見る

「恐らく最も大いなる慈愛は、互いに親切にし、人を裁いたり、格付けをしたりせず、相手の言動を良い方向に受け止め、口を慎むときに示されるのではないでしょうか。慈愛とは、人の相違点や弱点、欠点を受け入れ、自分を落胆させた相手に忍耐し、人が自分の望みどおりに対応してくれなかつたために感情を害したとしても、衝動的な怒りを抑えることです。慈愛とは人の弱点につけ込むことをせず、自分を傷つけた人を赦すことです。そして、相手の最も良い点に心を向けることです。」

十二使徒定員会

マービン・J・アシュトン長老（1915－1994年）

「舌は鋭い剣となる」

『聖徒の道』1992年7月号、20参照

主はわたしたちに 健康 の律法をお与えになった

わ

たしたちがこの地上に来たときに受けたすばらしい祝福の一つは肉体でした。わたしたちの体は神聖であり、とても大切なので、主は神の宮と呼んでおられます（1コリント3：16参照）。また主は、御自身の戒めには現世にかかわるものは一つもなく、すべての「戒めは靈にかかわるもの」であるとも言っておられます（教義と聖約29：35）。したがって、肉体に関する主の戒めは、靈にとっても益となるのです（教義と聖約89：19－21参照）。

天の御父はわたしたちに自分の体を大切にするよう望んでいるので、その方法に関して不可欠な情報を明らかにされました。その情報の多くは、教義と聖約第89章に記され、知恵の言葉という名で知られています。

この章から、肉体を健康に保つためにするべきこと、するべきでないことを幾つか学ぶことができます。この律法の精神は、栄養のある食物を摂取し、習慣性のある物や体に害のある物は避けるということです。主が体内に取り入れないよう命じておられる物の中には、薬物であるアルコールやたばこがあります（教義と聖約89：5－8参照）。薬として必要な場合を除き、薬物は用いるべきではありません。合法あるいは違法の薬物を誤用したり乱用したりする人は、もう一度体を清め、依存症から解放されるために助けを求める必要があります。体が清くなると聖靈の導きが受けやすくなります。

主は「熱い飲み物」の常用に関する助言も与えておられます（教義と聖約89：9）。預言者は「熱い飲み物」とは有害な物質を含むコーヒーとお茶を指すと語っています。熱くても冷たくても、有害な物質を含む飲み物はすべて避けるべきです。

また食べすぎたり、健康の維持に良い食べ物の摂取を拒否したりといった有害な行為もすべて避けるべきです。

するべきでないことに加えて、知恵の言葉はすることについても語っています。その幾つかがこの章で明

らかにされています。

主の健康の律法に従う人は「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。また、走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」（教義と聖約89：18－20）■

詳しくは、『福音の原則』167－172；『真理を守る』144－145を参照してください。



知恵の言葉やその他の聖文で、
主は健康のための指針を
明らかにしておられます。

1. 果実、野菜、そしてあらゆる草は「それぞれの季節」に「思慮分別と感謝」をもって用いるべきものです（教義と聖約 89:10-11 参照）。



2. 獣の肉や鳥の肉は「人間が感謝をもって用いるために定めた。しかしながら、これらは控えめに用いなければならぬ。」（教義と聖約 89:12）



3. 「すべての穀物は人間の食物として良い。」（教義と聖約 89:16）



4. 「与えられた力……以上に働くべきではありません（教義と聖約 10:4）。



5. 「〔わたしたち〕の体と精神が活気づけられるように」適切な睡眠の習慣を身に付けるべきです（教義と聖約 88:124）。



「栄養のバランスの取れた食事、定期的な運動、適度の睡眠は、……健康な肉体の維持に欠かせないものです。……」

トマス・S・モンソン大管長
「天の力を受けるために」
『リアホナ』1991年1月号、52

神への信仰があるので、わたしは決して 独りではない

「御靈みづから、
わたしたちの
靈と共に、
わたしたちが
神の子であることを
あかしして下さる。」
(ローマ8:16)

ドナ・ホレンベック

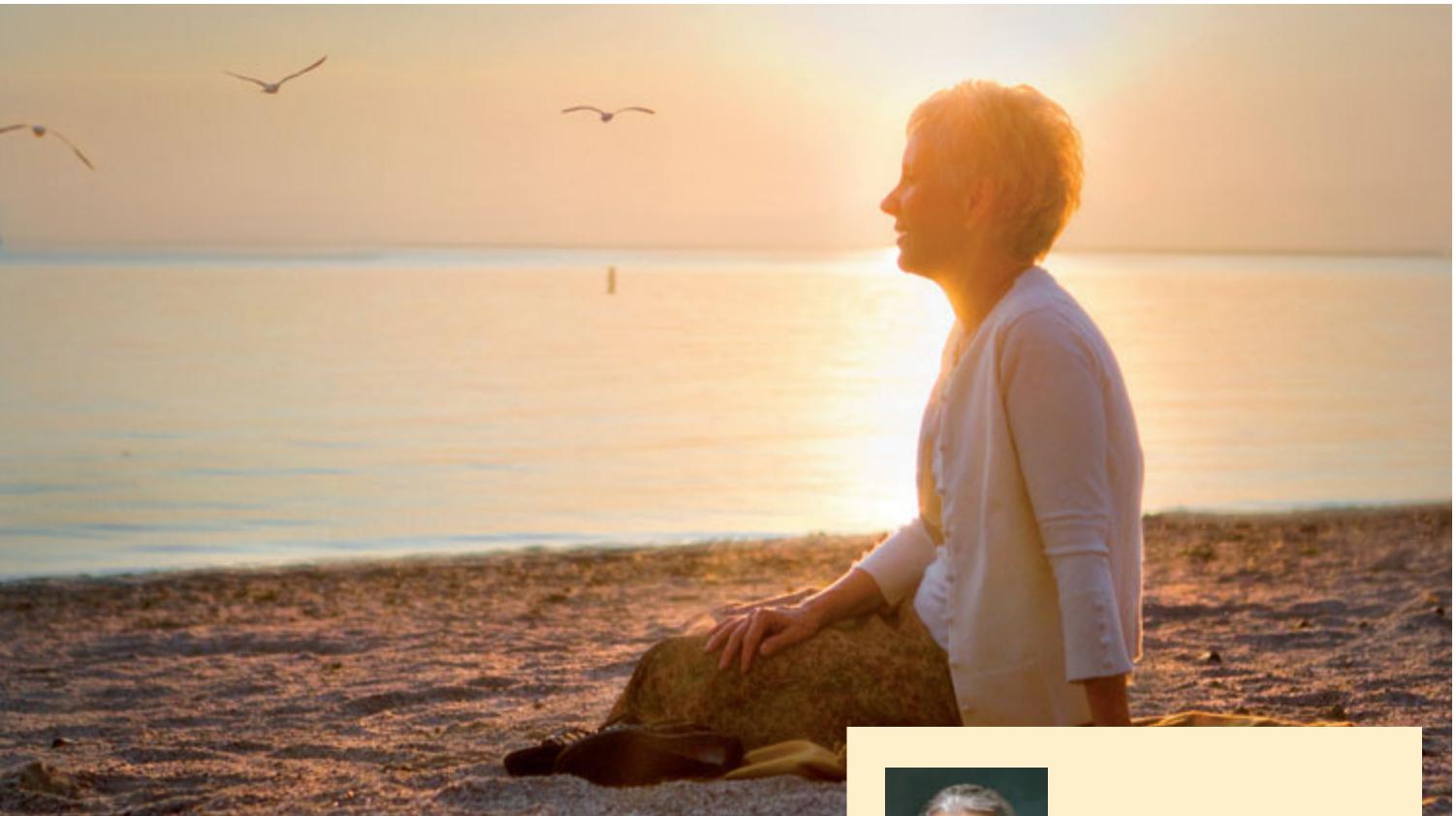
「**イ**エス・キリストと天の御父を信じる
信仰があれば、決して独りでは
ない。」似たような言葉をわたしは
これまで何度も耳にしてきました。しかし、その
意味を今ほど深く理解したことはありません。

だれもが、最終的には、避けられない現実に
直面することになります。それはいつの日か独り
になるという現実です。自分はと言えば、離婚、
子供の独立、早期退職といったことで、この日
は予想していたよりも早く訪れました。わたしが
克服しなければならなかった最も耐え難い
障害は、何年にもわたって、家族、友人、伴侶、
子供、そして職場の同僚との心地よい時間を
過ごしたその後で、この突然襲ってくる静けさ
や虚しさを感じながら生活することでした。

ホームティーチャーや訪問教師、友人とお
しゃべりするのは楽しいのですが、それ以外は
ずっと独りぼっちでした。そして、独りぼっちは
嫌でした。物音一つしない所にいると、思わず
涙があふれてきました。ひざまずいて祈ること
にしか慰めを見いだすことができませんでした。

何時間にも思えるような長い間、泣きながら
天の御父に祈っていると、わたしの中で何かが
変わり始めました。天の御父の御靈を感じた
のです。心を刺し貫くような主の愛を感じたとき、
いったん涙が治まりました。主がわたしの
悲しみを分かってくださっていることを知って
大きな慰めを感じると、再び涙がこぼれてきて、
しばらく泣きました。転んだ子供が母親を見て
泣くのとまったく同じです。天の御父の
ひざに顔をうずめているように思えたときに、
主がわたしを喜んで慰めてくださることが分か
りました。ふと、このようにするのはおとなげ
ないのではないかと思うことがありました。
しかし、天の御父にとってわたしの年齢は関係
ないということが分かりました。主がわたしを
理解してくださり、いつもわたしのそばにいてく
ださることがはつきりと分ったのです。

現在、まだ結婚したいという気持ちはあります
が、静かな生活も楽しめるようになりました。
波の音を聞き、夕日を眺めます。文字どおり、
立ち止まってバラのにおいをかぎます。御靈の



導きに従って聞き、行動します。独りでいても怖くはありません。天の御父とイエス・キリストを信じているかぎり独りではないからです。何かをするときにはいつも天の御父とイエス・キリストの御靈を感じます。

「イエス・キリストと天の御父を信じる信仰があれば、人は独りではない。」今、この言葉はわたしの心にとって新しく深い意味があります。何の疑いもなく、わたしは自分が決して独りではないことを知っています。わたしは御父の娘であり、御父はわたしを愛しておられるのです。■

このテーマについて詳しくは、ジョセフ・スマスー歴史1:5-20；ロバート・D・ヘイルズ「父なる神と御子イエス・キリストと聖靈に対する証を得る」『リアホナ』2008年5月号、29；スザン・W・タナー「天の御父の娘」『リアホナ』2007年5月号、106を参照してください。



天の御父は なぜわたしたちを 愛しておられるのでしょうか

「神は神聖で清く、筆舌に尽くし難い無限の愛であふれているので、わたしたちを愛してくださいます。神にとってわたしたちが大切なのは、わたしたちが優れた経験を持っているからではなく、わたしたちが神の子供だからです。神は、わたしたち一人一人を愛しておられます。弱い者、拒絶された者、不器用な者、悲しむ者、挫折した者であっても、御自分の子供たちを皆、愛しておられます。神の愛は非常に大きいので、高慢な者、利己的な者、横柄な者、邪悪な者さえ愛しておられるのです。

つまり、現在どのような状態であっても、わたしたちには希望があります。どのような苦難や悲しみに遭遇しても、どのような間違いを犯しても、無限の哀れみに満ちた天の御父は、わたしたちが御自身に近づくことによって、御父がわたしたちに近づけるよう願っておられます。」

大管長会第二顧問 ディーター・F・ワークトドルフ管長
「神の愛」『リアホナ』2009年11月号、22-23



「わたしが選ぶところの断食は」

わたしは、求道者だったある家族の模範を通して、信仰と目的をもって断食の律法に従うとき、主が確かに約束を果たしてくださることを学びました。

アレクサンドリア・シュルツ

わたしはアメリカ合衆国テキサスで専任宣教師として奉仕していたときに、初めてイザヤ書第58章を読みました。主はこの中で、断食の律法の教義の概要を示しておられ、その律法に従順に従う者が受ける祝福を20近く挙げておられます。わたしは伝道前にも、自分自身や友人や家族の生活の中でそのような祝福を目にしていました。しかし、わたしたちの断食が主の目にかなったものであるときほんとうに主の祝福が注がれることが真に理解するようになったのは、ある求道者とその家族の模範と信仰を通してでした。

「また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、「わたしはここにある」と言われる。」(イザヤ58:9)

コリーナ・アギラーは、同僚とわたしから福音を学び始めたころには、すでに教会に行きたいと言うようになっていました。そして福音の回復について学び、モルモン書を読んで、この書物について祈った後、彼女は教会が眞実であると感じました。しかしどうしてもバプテスマを受ける決心がつかない理由がありました。それは夫マヌエルのことでした。

コリーナは自分一人では教会に行くつもりはなく、家族全員で一緒に福音を学ぼうと決めていました。しかし、マヌエルは長時間勤務で忙しく、帰宅したときには疲れ果てていて、宣教師の話を聞くどころではありませんでした。

コリーナはマヌエルがわたしたちと会いたいという望みを持ってくれるように祈り始めました。しかし、何週間たっても彼の態度に変化はありませんでした。するとある日、レッスンの最後にコリーナが断食について尋ねてきました。わたしたちは次の約束の時間に遅れそだつたため、簡単に説明しました。断食するときは、2回続けて食事を抜き、食

べ物や飲み物を取らないこと、そしてその間、自分や人のために助けや導きを求めて天の御父に祈ることを伝えました。次に来たら詳しく教えると約束して、急いで出かけました。

数日して、再びコリーナを訪ねました。レッスンの中で、彼女が悲しそうに「わたしは断食できないと思います」と言うのを聞いて、わたしたちは驚きました。前回の訪問以来、ずっと断食を続けていたというのです。朝食と昼食を抜いて夕飯だけを食べ、その食事の後でまた断食を始め、翌日の夕飯まで何も食べないというパターンを3日間続けたそうです。「ほんとうに頑張ったのだけれど、とても難しかったわ」とコリーナは話してくれました。

彼女の信仰に驚嘆しながら、わたしたちは慌てて、普通は1日だけ断食するものであることを説明しました。その後で、そのような犠牲を払う動機は何か知りたいと思い、彼女に尋ねました。「コリーナ、何のために断食していたのか聞かせていただけませんか。」

「夫のためです」と彼女は答えました。

主の戒めに従って家族のために祝福を求めるという彼女の願いに感銘を受けました。十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老(1917–2008年)はこのように教えていました。「義にかなった祈りと嘆願は断食によっていつそう大きな力を持つことがしばしばあります。」¹ コリーナの場合も同じでした。翌週、マヌエルはわたしたちと会うことに同意してくれました。疑いを持ちながらも、救いの計画について学んでからは、彼も祈り始め、モルモン書をトランクに置いておき、仕事の休みに読むようにさえなったのです。やがて、コリーナとマヌエルと3人の子供たちが一緒に教会に出席するようになりました。

そのような
犠牲を払う動機を
知りたいと思った
わたしたちは、
コリーナに
何のために
断食しているのか
聞きました。
すると
「夫のためです」
という答えが
返ってきました。



「わたしが選ぶところの断食は、惡のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ……るなどの事ではないか。」(イザヤ 58:6)

大きな進歩を遂げながらも、マヌエルは知恵の言葉をなかなか守れずにいました。若いころからアルコールを飲んでいたのです。やめるのが難しかっただけでなく、友達からあざけりを受けることを恐れてもいました。

コリーナも夫の習慣の奴隸になっているように感じ、彼を助けようと何年も苦労していました。でも今は、新たに見いだした信仰と、断食の力についての証を得て、マヌエルが知恵の言葉に従う強さが得られるように定期的に断食し始めました。

コリーナの夫に対する愛を目にして、わたしは新約聖書に記されている物語を思い出しました。それは、ある父親が、死にかけている息子を救ってくれるように使徒たちに嘆願する物語です。使徒たちは信仰を働きかせながらも、奇跡を起こせずにいました。しかし主は、子供を癒された後で、「このたぐいは、^{いや}祈^{いのり}と断食とによらなければ、追い出すことはできない」と語られました（マタイ 17:21）。

そして、マヌエルもまた祈りと断食を通して、習慣を絶つ強さを徐々に得ていきました。最初は友達にあざけられることもありましたが、マヌエルが戒めを守ることで主に忠実さを示す姿を見て、やがて友達も彼を尊敬するようになりました。

「主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、……あなたは潤った園のように……なる。」(イザヤ 58:11)

断食によって、主から助けや力、導きを与えられるとともに、惜しみなく断食献金を納めることによって「飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせる」機会が得られます（イザヤ 58:10）。大管長会第一顧問のマリオン・G・ロムニー管長（1897－1988年）は次のように教えました。「惜しみなく与えてください。そうすることであなたがた自身が成長できるでしょう。……このように行うすべての人々は靈的な事柄についても物質的な事柄についてもその繁栄が増し加わることを約束いたします。」²

アギラー家族がバプテスマに備える間、彼らの信仰は様々な形で試されました。バプテスマの日付を決めたすぐ後にマヌエルは失業し、子供たち

の食料はもちろんのこと、家賃や公共料金などをどう支払ったらよいのか、彼もコリーナも見当が付きました。親族から経済的な援助を受けましたが、すべての費用を貯うには十分ではありませんでした。

ほかに方法が見つからなかったため、二人はガレージセールをすることにしました。まず、アパートにあったぜいたく品を売り、それから手放せるものは何でも売り始めました。およそ1週間後、その月の家賃分はたまりましたが、その先の数か月をどうやって乗り切るかを考えると恐ろしい気がしました。

間もなく、支部の会員たちが助けに来ました。ほかにどんな助けが必要かを把握するために、支部会長がマヌエルと話しました。そしてアギラー家族が難局を乗り切れるように、支部としてできる限りのことを行いました。

アギラー家族は引き続き戒めに従い、家族を養うためにできる限りのことを行う中で、新しい就職口をはじめ数々の祝福を目りました。彼らは試練の最中にあっても、もし従順ならば主は必要なものを与えると約束してくださっていることを学びました。

「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、……あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。」(イザヤ 58:8)

2008年11月9日、アギラー家のマヌエルとコリーナ、ジョバニ、そしてルピトの4人はバプテスマの水に入りました。末娘のマリエラは8歳になつてバプテスマを受けるのを楽しみに待ちました。マヌエルはすぐにアロン神権を受け、後にメルキゼデク神権を受けました。

1年後、マヌエルとコリーナは自身のエンダウメントを受けるために神殿に参入しました。そして、



今二人は、子供たちとの結び固めを受けるため、再び神殿に参入する準備をしています。

「あなたは代々^{よよ}(の)墓を立て^{てる}るようになる。」(イザヤ 58:12)

家族で最初に教会に入ったマヌエルとコリーナは開拓者であり、信仰と犠牲の模範を通して、子孫やほかの人々に義にかなった範例を示しています。子供たちが福音の祝福を受けられるように助けただけでなく、友達や親戚に、戒めに従順であることによってたらされる喜びを示しました。そのうちの何人かは宣教師に会い、バプテスマを受けました。

断食は強さと慰めというかけがえのない祝福への扉を開けます。アギラー家族のように、わたしたちは皆、救い主に従おうと努力するときに試練や困難に直面します。自分の弱さや誘惑を克服しようともがいたり、人の過ちのゆえに苦悩したりすることもあるかもしれません。肉体の痛みや精神的な苦痛に押しつぶされそうに感じたり、経済的な苦境に耐えなければならなかったりするときもあるでしょう。背負う重荷が何であれ、断食は「[わたしたち]の荷を主にゆだね」る助けとなり、それによって「主は[わたしたち]をささえ」てくださるので(詩篇 55:22)。信仰と目的をもつて断食の律法に従うなら、イザヤ書第58章で約束された祝福を生活の中で目の当たりにすることでしょう。■

注

1. ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」「聖徒の道」2001年7月号、89
2. マリオン・G・ロムニー「断食の祝福」「聖徒の道」1982年12月号、4

祈りと断食により、マヌエルは徐々に習慣を断ち切る力を得て、アギラー家族はバプテスマに備えました。



十二使徒定員会
クエンティン・L・
クック長老



御父に関する教義

回復の一部として啓示された最も麗しく基本的な真理の一つは、天の御父の性質と、地上に生まれるすべての人と御父との個人的なつながりに関するものです。

背教によって失われた第一の原則の一つは、父なる神に関する理解でした。ですからそれが回復の中で啓示された第一の原則に含まれていることは、驚くことではありません。その重要さのゆえに、末日聖徒の信仰として最初に宣言されるのは、「わたしたちは永遠の父なる神……を信じる」という原則です（信仰箇条1:1）。

教員は、父なる神が宇宙の至高の統治者であり、わたしたちが靈として存在するようにされた力であり、わたしたちに希望と可能性を与える計画を立てられた御方であると理解しています。神はわたしたちの天の御父であられ、わたしたちは前世で御父の家族の一員として御父のもとに住んでいました。わたしたちはそこで教えを学び、現世に備えました（教義と聖約138:56参照）。わたしたちは天の御父のもとから来ており、わたしたちの目標は、御父のもとに戻ることです。

神の子供たちに示されているすべての教義、信条、原則の中で、御父の存在や性質に

関する真理は、何にも増して注目すべき事柄です。わたしたちは古代の信者や預言者のように、御父の実在や真の性質を認め、眞の礼拝をささげます（モーサヤ4:9参照）。御父が地上に住む人々に示し、命じ、お始めになつたすべてのことの目的は、わたしたちが御父のもとに戻れるよう、御父を知り、熱心に見習い、御父のようになることです。永遠の命とは、御父と御子イエス・キリストを知ることなのです（ヨハネ17:3；モルモン書ヤコブ4:5；モーセ5:8参照）。

家族の永遠の規範

御父を知るうえで中心となるのは、明らかにされている家族の規範を理解することです。家族は今も永遠にわたっても最も大切な単位であり、神によって定められたものです。¹ 愛に満ちた家族関係の中で生活することにより、大きな幸福を得るだけでなく、正しい原則を学ぶ助けを得、永遠の命に備えることができます。² それに加え、わたしたちは家族関係

宣教師と
彼らが教えている人々は、
ジョセフ・スミスの
最初の示現や
救いの計画について
学んでいるときに、
御父と御子についての
教義の靈的な重要性に
すぐに気づきます。
それらが
真実であることを、
聖靈が証するからです。

を通して、御父を知り、愛し、理解するための助けが得られます。これは末日聖徒が常に、教会においても社会においても結婚と家族の大切さを強調する理由の一つです。神の計画により、家族関係が墓を超えて続く方法が与えられています。わたしたちは永遠に家族と結び合わされ、神のもとに帰ることができます。³

天の御父はわたしたちが御父と暮らしていた前世についてあまり多くの詳細は明らかにしないことを選ばれました。これは恐らく、神が地上で定められた義にかなった家族の規範を観察するだけで多くのことを学べるからでしょう。地上での義にかなった家族の規範を注意深く観察し、それに従って正しく生活することは、御父を知るための探求において核となります。

天の御父と家族は固く結びついて、切り離すことはできません。この結びつきの多くの側面を理解するとき、天の御父がわたしたち一人一人に注いでおられる愛や御父とわたしたちの関係が、いかに個人的で個別のものであるかをもっと完全に理解し始めることができます。そして、御父がわたしたちに対してどのように感じておられるかを理解することによって、わたしたちは御父をもっと純粹に、そして完全に愛する力を得ることができます。御父との関係が真実であることや、その知識から得られる愛や力をじかに感じることは、この世において人が得られる最も深く麗しい感情や望みの源となります。この深い愛の感情は、困難や試練に遭うときも御父に近づこうとする動機となり、力となるのです。

愛に満ちた選びと熟慮の末の行い

すべての人は天の御父によって「もうけられた」靈の息子・娘です。⁴ *Begotten*（もうけられた）という言葉は *beget*（もうける）という言葉の形容詞形であり、「生を受けられた」ことを意味します。*beget*（もうける）という表現は、聖文の中で、命を与える過程を表して使われています（マタイ1：1－16；エテル10：31参照）。〔訳注——マタイについては日本語には訳出されていません。〕

神が啓示された義にかなった家族規範において、子供の誕生は意図された、愛に満ちた選択の結果です。神の靈の子供のために肉体を創造するという神聖な過程において、両親が天の御父とともに協働して取った、思いやりに満ちた熟慮の末の行動の奇跡的な結果なのです。愛に満ちた選択と熟慮の末の結果として命があると知ることにより、

この現世において人には大いなる価値があると感じることができます。自尊心を持つことで、自分の可能性を信じ、誘惑から守られるようになります。

サタンは子供の誕生に理想的とは言えない状況を使って、人に個人の価値や可能性を疑問視させることを喜びます。どのような状況で生まれるかにかかわらず、わたしたちは皆天の両親の靈の息子・娘です。義にかなった愛ある御父である神は、わたしたちに命と機会を与えるために、熟慮と愛に満ちた選びの結果としてわたしたちの靈が存在するようにしてくださったのです。

一人ずつ

義にかなった親は、この世に子供をもたらすという熟慮と愛に満ちた選びをするだけでなく、子供が生まれるまでの間、備え、祈り、熱心に待ち望みます。誕生後は、子供を腕に抱き、話しかけ、世話をし、守ることに喜びを感じます。赤ちゃん一人一人が持つ行動パターンや必要を学びます。子供が自分自身を知っている以上に、親は子供のことを知っています。子供が何人いようと、親にとっては一人一人が個別の存在です。

この規範を知ることにより、天の御父が靈の子供であるわたしたち一人一人を御存じであることを理解する助けが得られます。御父は少なくともわたしたちが靈としてもうけられたときからわたしたちを御存じです。わたしたちは御父の貴い息子・娘であり、御父はわたしたち一人一人を愛してくださいっています。

名前で知られる

地上の家族のもう一つの規範から、御父がわたしたち一人一人に対して抱いておられる愛を理解する助けが得られます。子供が生まれると、その子供が一個の人間として確立していく第一歩として、親は子供に名前を付けます。命名は、あらゆる文化において重要であり、多くの場合神聖な儀式を伴います。名前はその人個人の存在に重要な意味を持っているためです。子供は自分の名前を選ばず、親が子供に名前を与えます。

ほとんどの文化において、子供は自分個人の名を与えられます（セカンドネーム、ミドルネームを与えられる場合もあります）。子供に親や家族、祖先と結びつける姓を与えることも世界中でよく行われています。中には、第2の姓（例え



フォトグラフ:スティーブ・スミス

ば、母親の姓)などを付けて、さらに親戚や社会との結びつきを表す別の名を付ける文化もあります。

この形式と同じように、天の御父が一人一人を別個の存在として認めてくださっていることをわたしたちは知っています。一人一人を名前で御存じなのです。幾つかの聖句から、前世でも、現世で区別されるのと同様の形式に従って、名前で区別されていたことが分かります。御父が地上の個人を訪れられた記録の中で、それぞれを名前で呼んでおられます。これは御父が一人一人を別個の存在として個人的に御存じであることを示しています。預言者ジョセフ・スミスは最初の示現で御父の現れを受けたときのことを「そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼〔ばれた〕」と語っています（ジョセフ・スミス——歴史1:17。モーセ1:6;6:27も参照）。

御父はわたしたちを御存じです。貴い靈の息子・娘一人一人をもうけられ、それぞれに独立性をお与えになったからです。それは主が

エレミヤに「わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知」っていたと語られたのと同じです（エレミヤ1:5）。

御父の特質を持つ、御父に似た者として

聖書は、男性と女性は神の形にかたどって造られたと教えています（創世1:26-27参照）。遺伝学的にも、実際に目で見ても分かるように、子は親の体つきや外見、特徴を受け継ぐという原則があります。他人と比較することで自尊心を築こうとする人もいますが、そのような方法では、劣等感、あるいは優越感が生じかねません。自尊心を築くには、直接御父に目を向けることが望ましいと言えます。

現世の系図は何年もさかのぼり、何代にもわたって示されます。しかし靈の系図は、御父とわたしたちの2代しかありません。わたしたちの体はまだ榮光を受けてはいませんが、天の御父の体と同じ形です。「わたしたちは今や神の子である。……彼が現れる時、わたしたちは……彼に似るものとなる……。そ

**家族関係を通して、
御父を知り、愛し、
理解するための
助けが得られます。
これは、末日聖徒が常に、
教会においても
社会においても、
結婚と家族の大切さを
強調する理由の一つです。**

義にかなった家族生活の規範を通して御父を知ろうと求めるとき、御父がわたしたちに対して抱いておられる愛の深さを理解し始め、御父に対してさらに深い愛を感じるようになります。

のまことの御姿を見るからである。」(1ヨハネ3:2。教義と聖約130:1も参照) わたしたち一人一人の中には、神のようになる隠れた種が宿っていて、神の恵みとイエスが示された完全な従順の道に従うことによって花を咲かせ、実をならせることがあります。「神の子です」の歌詞を読んだり、歌ったりするときに、力を感じます。⁵

御父の愛

背教によって引き起こされた大きなゆがみの一つは、父なる神の救いの計画が非常に無情残酷なものとされてしまったことです。英國国教会の指導者であり、古典派の学者、信者であり、*Life of Christ* (『キリストの生涯』) の著者として高く評価されているフレデリック・ファラーは、ほとんどのキリスト教会が地獄や天罰について誤った見方をしていることを嘆いています。その誤りは欽定訳聖書を出版するに当たり、ヘブライ語とギリシャ語から英語に翻訳する際に起きたものでした。⁶

預言者ジョセフ・スミスに啓示されたとおり、愛ある御父の救いの計画は全人類に及びます。この世でイエス・キリストについて聞く機会のないすべての人も、責任を取れる年齢になる前の子供も、判断力のない人も含まれます(教義と聖約29:46-50; 137:7-10参照)。

サタンやその使いたちは違ひ(イザヤ14:12-15; ルカ10:18; 黙示12:7-9; 教義と聖約76:32-37参照), 人生で不義な行いをしても、サタンやその使いたちは違って神に背くことはなかった人々のためにさえ、愛ある御父は、この地上のわたしたちの状態よりも優れた栄光を持つ王国を用意しておられます(教義と聖約76:89-92参照)。御父がその靈の子供たちに対して抱いておられる愛は、疑いようがありません。

義にかなった家族生活の規範を通して御父を知ろうと求めるとき、御父がわたしたちに対

して抱いておられる愛の深さを理解し始め、御父に対してさらに深い愛を感じるようになります。家族をゆがめ、破壊しようとする働きは、御父の子供たちに神の愛を感じさせないようにし、神のもとに戻らせないように意図されています。

権威を振りかざして虐待行為を行う男性、婚姻外の出産、望まれずに生まれる子供、そのほかにもこの時代の社会が直面する問題のゆえに苦しむ人々にとって、義にかなった、愛と思いやりに満ちた御父を理解し、望み、信仰を持つことは、さらに難しいことでしょう。御自分のことを知るように御父がわたしたちを助けたいと思っておられるのと同じように、悪魔は可能な限りのあらゆる手段を使って、御父とわたしたちの間を裂こうとしています。幸い、いかなる力も、罪も、状況も、御父の愛からわたしたちを引き離すことはできません(ローマ8:38-39参照)。神が初めにわたしたちを愛してくださったので、わたしたちも神を知り、愛することができるようになります(1ヨハネ4:16, 19参照)。

今日、社会の病弊があまりにも広がっているので、世の中に横行している誤った考え方や行いを癒し、正し、克服するために、御父と家族の教義を教えなければなりません。エライザ・R・スナー(1804-1887年)が気品高く表現したように、世の中には神を「父」と呼びながら「なぜか」を知らずにいる人が大勢います。

ありがたいことに、「知識の鍵」は回復され、^{かぎ}御父に関する教義は再び地上に存在するのです。 ■

注

- 1.『手引き 第2部——教会の管理運営』(2010年) 1.1.1 参照
- 2.『手引き 第2部』1.1.4 参照
- 3.『手引き 第2部』1.3 参照
- 4.『家族——世界への宣言』『リアホナ』2010年11月号, 129 参照
- 5.「神の子です」『賛美歌』189番
- 6.フレデリック・W・ファラー, *Eternal Hope* (1892年), xxxvi-xlii 参照
- 7.「高きに榮えて」『賛美歌』180番英文歌詞参照

御父の愛の腕に抱かれて

匿名

6歳のときに両親が離婚しました。わたしはそのまま母と暮らしましたが、父と離れた後もわたしの生活には依然として父の存在がありました。わたしは週末と、週の半ばの1日を父の家で過ごしました。

父は良い父親であろうと努力してくれていましたが、7歳のとき、とてもひどい形で父に信頼を裏切られる出来事がありました。そのときを境に、わたしたちの間の距離は広がっていきました。父が家に電話してきても、わたしは電話に出ないようにしました。もっと大きくなると、いつ父の家で過ごすかを親権命令によって強制されるのではなく、自分で選べるようにしてほしいと要求しました。

高校生になると、父の家に行く回数は徐々に減っていき、父と会うのは月にほんの2、3回になりました。大学に通い始めると、電話の間隔が空くようになり、ついに父と話すのは1学期に1回程度になりました。父との関係は、実の親子のつながりというよりも形式的なものになってしまっていました。

大学2年生のとき、わたしは子供のころの出来事について父に話そうと決意しました。何年も前にわたしたちの関係に亀裂を生んだと感じていた出来事です。それによって心を整理し、赦し、最初からやり直す機会を得られたならと願っていました。わたしはメールで父に思いを伝え、返信を待ちました。

しばらくして、父から返信がきました。父の返事を読む前に、わたしは天の御父に祈り、そのメールを読むときに御父の御靈がともにあるように願い求めました。わたしの人生におけるとても重要な瞬間でした。父にどんな言い分があるか、そしてわたしたちの関係が今後どの方向に進むかを、まさに知ろうとしているのです。怖さと、深い孤独を覚えました。

実際、わたしは独りきりで、自分の部屋でコンピューターの前に座っていました。支えを必要としていました。わたしは天の御父に祈り続け、

御靈を感じました。ようやく読む勇気を持てました。

父の返事は非常に短いものでした。メールには、わたしが言っていることについては一切覚えがなく、今、とても自分たちの過去について話し合える状況ないと書かれていました。

わたしにとって非常に重要なことを父がそのように簡単に片付け、どんな和解も望んでいないように思われることに、わたしは深く傷つきました。父に見捨てられたと感じ、苦悩に満ちた関係が10年以上も続いてきたことへの悲しみに打ちひしがれました。

いすに座ってすり泣いていると、御靈に包まれているのを感じました。天の御父の存在をあれほど強く感じたことはありませんでした。文字どおり御父の「愛の御腕に永遠に抱かれている」のを感じました(2ニーファイ1:15)。座って泣きながら、大丈夫だ、自分は愛されているという気持ちがしました。

地上の父との関係は十分なものでなかったかもしれません、天の御父はわたしと一緒にいてくださいました。

わたしは生活の中で御父の存在を強く感じています。御父がわたしを愛し、心にかけてくださっていて、いつもでもわたしとかかわりを持つことを望んでくださることを知っています。

天の御父がわ

たしの御父

であられる

ことを知つ

ています。

そして御父

はどこにも

行ってしまわ

れることはあ

りません。■

地上の父との関係は十分なものでなかったかもしれません、天の御父はわたしと一緒にいてくださいました。





み こ と ば

御言葉に飢え渴く エクアドルの人々

教会機関誌
ジョシュア・J.
パーキー

「義に飢え渴いている人々は皆、幸いである。彼らは聖靈に満たされるからである。」
(3ニーファイ12:6)

アナ・ビスピクト姉妹はにこやかに笑いながら、家の外壁の板にもたれかかりました。一緒にベンチに座った子供たちも、皆、アナと同じように満面に笑みをたたえています。よく晴れた暖かな土曜日の午後です。アナはエクアドル東部のジャングルの中にある小さな街、ペルト・フランシスコ・デ・オレリャーナに住んでいます。たった今、オレリャーナ支部会長会の兄弟たちが立ち寄ったところです。アナが姉妹宣教師と話しているのを知らずにじゃましてしまった彼らですが、アナは気にすることなく、一行を歓迎しました。感謝することがたくさんあるアナは、感謝の気持ちを惜しみなく表します。

つらい思いをしてこなかったわけではありません。アナは独りで5人の子供を抱えて暮らしています。日々の仕事を見つけるのは容易で

はありません。そして2009年8月にバプテスマを受けたとき、一緒に教会に入った子供は1人だけでした。

でも翌年に祝福を授かりました。さらに3人の子供がアナの模範に倣い、バプテスマと確認を受けたのです（当時1人はまだ儀式を受けられる年齢に達していませんでした）。

そうです、アナの目は感謝の気持ちで輝いています。オレリャーナ支部のほかの会員たちと同じように、アナはイエス・キリストの福音を実践することで得られる純粋な喜びを見いただしているのです。

喜びは望みから始まる

2008年12月、ペルト・フランシスコ・デ・オレリャーナには正式な教会組織はありませんでした。当時この地にはかなり多くの会員



左——福音によって喜びを味わうアナ・ビスピクト姉妹と子供たち。

上——2010年の中部大会に集まったオレリャーナ支部の会員たち。

が住んでいましたが、長年教会に出席していない人もいました。

しかし、何かが起こりました。御靈が心を動かし、生活に変化をもたらしたのです。御靈の促しを受けた4家族が、集まって聖文を研究し、教え合うようになりました。この学びたいという気持ちは今もなおこの街に満ちあふれています。

「この地の人たちは福音に飢え渴いています」と、支部の会員であるファニー・バレン・ガルシア姉妹は言います。

この飢えに突き動かされて、ペルト・フランシスコ・デ・オレリャーナの会員たちは教会に連絡を取り、聖餐を行う許可を求めました。「わたしたちの方から行ったではありません」と、エクアドル・キト伝道部の元会長であるティモシー・スローン兄弟は振り返ります。「彼らの方から電話してきたのです。モルモン書は、主を信じる信仰を働かせなさい、そして悔い改めなさいという救い主の招きが全編を貫いています。主の招きに従いたい、その気持ちに従って行動したいという望みが、この地にはすでにありました。その招きはわたしたち全員に向けられたものです。」

ペルト・フランシスコ・デ・オレリャーナに移って来た人たちの心にも、同様の望みがありました。2009年1月の初め、現在支部会長を務めているマルコ・ビリヤビセンシオ兄弟と妻のクラウディア・ラミレス姉妹は、ある仕事に就くかどうか検討していました。その仕事に就けば、ペルト・フランシスコ・デ・オレ



家庭訪問の祝福

「イエス・キリストの福音を喜んで受け入れるためには、まずその福音の源である御方を喜んで受け入れなければなりません。救い主と救い主の教えに頼らなければならないのです。おがく贖いにより、救い主はわたしたちに對する約束を守る力をお持ちになったということを信じなければなりません。イエス・キリストを信じる人は、主の贖いと教えを受け入れて実践します。……

わたしはイエス・キリストの福音を愛しています。福音は、福音の実を食べて、その実でしか味わえない『非常に大きな喜び』(1ニーファイ8:12)を経験し、この世のあらゆる困難にあって最後まで堪え忍ぶ方法を定めているからです。福音はわたしたちが復活し栄光を受けた者として、天の御父のみもとに帰って住むために必要なすべての知識を与えてくれます。わたしたちが皆、永遠の命の光景を引き続き心に思い浮かべることができますように。イエス・キリストの福音という永遠の命のレシピにある手順を熱心に守ることができますように。」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老
「イエス・キリストの福音」「リアホナ」2008年5月号、44, 46

リヤーナに引っ越す必要がありました。二人が住んでいたのはエクアドルの反対側にあるマチャラでした。

「まず知りたかったのは、そこに教会があるのかということでした」とビリヤビセンシオ会長は言います。「妻とわたしは家族とともに話し合い、引っ越しすべきか知るために祈りました。仕事の申し入れを受けたすぐ後で、プエルト・フランシスコ・デ・オレリヤーナに教会が設立されようとしていることを知りました。こちらに引っ越しして来たのが2009年2月で、その年の9月に支部が組織されました。」

奉仕の喜び

キリストのもとに行きたいという望みは、奉仕したいという望みに自然につながります。イエス・キリストの福音は、与える者と受ける者の両方を変えます。恵みをもたらし合うこの過程が起こるのは、へりくだり、心を開き、奉仕を行うときです。奉仕はプエルト・フランシスコ・デ・オレリヤーナで教会が発展するうえで重要な役割を果たし、奉仕する人たちを強めてきました。

自分の召しについてどのように感じているか尋ねられ、2010年9月に扶助協会会长会に召されたクララ・ルス・ファルファン姉妹は答え

「この地の人たちは福音に飢え渴いていて、福音を知りたいと切に望んでいます。」

マルコ・ビリヤビセンシオ会長

ます。「楽しいです。姉妹たちが教会に来るのを助けたり、バプテスマを受けた新しい姉妹たちを強めたりすることができると知っているからです。」

そのような気持ちが支部の会員たちの心に急速に広がってきました。扶助協会会长のロウルデス・チェンチェ姉妹は、姉妹たちを強めるには努力が求められるけれども、自分は喜んで努力すると言います。「扶助協会の会長会として、また会員として、わたしたちは姉妹たちを訪問します。姉妹たちが問題を抱えているとき、わたしたちはそばに行きます。必要な

ときには食物を提供します。独りではないこと、イエス・キリストと支部の助けがあることを知つてもらいます。そして祈りや聖文研究、備えなど、自分の役割を果たさなければならぬことを教えます。一緒に祈り、慰め、深く愛します。」

しかし、姉妹たちは単独で業を行のではありません。「どのようなことができるかを支部会長と話し合います」と、ロウルデスは付け加えます。「姉妹たちの必要を支部会長や支部評議会に伝えて、何を行う必要があるかを判断できるようにしています。」

自分の役割を果たそうという姉妹たちの決意は、支部全体に行き渡る気運となっています。

左下——
支部会長のマルコ・
ビリヤビセンシオ兄弟、
妻のクラウディア姉妹
と息子。

右下——
ファイヤサイドに出席する
クララ・ルス・
ファルファン姉妹と
支部の会員たち。



支部のある家族を助けた奉仕プロジェクトには「全員が参加しました」と、ロウルデスは言います。「子供も、青少年も、成人も、扶助協会も、宣教師もです。とても心が高められました。『同胞のために務めるのは、よりもなおさず、[わたしたち]の神のために務めるのである』ということを知っています〔モーサヤ 2:17〕。奉仕するとき、それはイエス・キリストのために行っているのと同じです。それが王国なのです。」

フェローシップの喜び

一致、すなわち聖徒の共同体への帰属意識には、わたしたちを強めてくれる何かが間違なくあります。「聖徒たちと同じ国籍の者〔となり〕、神の家族」となって（エペソ 2:19）、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望〔む〕」家族のように生活するとき（モーサヤ 18:8-9）、祝福が注がれます。

ファニーは次のように説明します。「わたしたちの強さは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として一つの家族のように感じていることから来るものだと、わたしは信じています。奉仕し合うことによって、すばらしい善の行いがなされてきたと思います。必要なものを何でも与え合うことで、一体感が生まれています。わたしたちは新たに教会に来るすべての人を心から受け入れ、歓迎します。

抱擁は幾多の言葉より多くを語る
「わたしたちは
ものだと信じています。」

アナの経験から、それがほんと
うであることが分かります。5人
の子供を女手一つで育てているア
ナは、仕事を見つけるのが容易で
ない中で、家族を養うという経済

的な課題に絶えず直面します。そのような状況で努力していると、情緒的にも精神的にも疲れ切ってしまいかねません。支部の会員たちのフェローシップのおかげで、家族は大変なときに大いに助けられてきました。「会員たちは我が家に来て一緒に聖典を読んでくれます」とアナは言います。「見守ってくれます。」



支部扶助協会会长でありセミナー教師であるロウルデス・チェンチエ姉妹と話す
ビリヤビセンシオ会長と会員たち。

苦しいときにはそばにいてくれます。それは新会員にとって、とても重要なことです。」

この仲間意識は、支部がこれほど急速に発展してきた理由の一つです。最初の日曜日には会員が28人だった支部が、わずか1年で出席者が83人にまで増えました。その中には教員でない訪問者が10人以上含まれています。

支部大会の前の土曜日、支部の指導者たちは会員や求道者を訪問しました。訪問先で聖句を分かち合い、より良い人となるように励ました。

最近バプテスマを受けたある兄弟は、聖文の研究によって改宗しました。自分でも読み、会員や宣教師とも一緒に読みました。「モルモン書が鍵です」と、その兄弟は言います。「わたしにとっての鍵です。」彼は教会に

喜びを見いだしています。福音にとても強く心を引かれて、
バプテスマを受ける前から什分の一を納め始めました。

しかし、友情は福音を分かち合うだけにとどまらず、さらに影響を及ぼします。友情には生き方を変える力があるのです。

「教会に入る前は、友達といえば飲みに行く人だけでした」と、もう一人の最近の改宗者であるベルナベ・パルド兄弟は言います。「でも会員となった今は、たくさんの友達、ほんとうの友達がいます。一緒にモルモン書を読もうと誘ってくれます。家庭の夕べに招待してくれます。彼らは奉仕し合います。わたしも一緒に奉仕プロジェクトに参加してきました。今ではすっかり生活が変わりました。とても祝福を受けてきました。什分の一を納めるわたしを、主は祝福してくださいました。」

その生き方は成人だけのものではありません。「わたしたちは若い女性に、フェローシップの力、あいさつをすることと参加することが持つ力を

左から
ビリヤビセンシオ会長と
最近の改宗者
ペルナベ・バルド兄弟。
扶助協会集会。
ファニー・バレン・
ガルシア姉妹、
夫のリカルド兄弟と
子供たち。
福音の教義クラス。

いつも教えています」と、クラウディア・ラミレス姉妹は言います。「初めて教会に来た人の印象に残るのは、どのように迎えられたかです。ですからわたしたちは若い女性に、一人一人が主にとってどれほど大切なことを教えています。このことはとても役立っています。また、若い女性と一緒に『成長するわたし』の目標も設定します。そうすることで、人々と友情を分かち合うように動機づけることができます。」

ビリヤビセンシオ会長は次のように説明します。「すべての新しい改宗者は神の善い言葉による養いと友人と責任を必要としているというヒンクレーラ大管長の勧告を、わたしたちは実践しようと努めています。」¹

アナは初等協会会長で第二顧問として奉仕しています。息子のホルヘは教師定員会で第一顧問として奉仕しています。

ビリヤビセンシオ会長はこう言います。「わたしたちは彼らに責任を与えていました。指導的な立場において学ぶ機会を与え、彼らを支援する人がいるようにしています。」

変わる喜び

クラウディアは福音の中で奉仕することによって少し自信が持てるようになりました。「わたしは8歳のときにバプテスマを受けました。わたしたちはいつも教会に出席していました。でも成長していく中で、たくさんの不幸な結婚を見ました。そのような結婚について度々考え、自分は決して結婚できないのではないかと不安に思いました。うまくいかないだろうと思ったからです。自分の人生を人にゆだねることに恐れを感じ、あまりにも難しいことだと思いました。でも伝道から戻ってからは、そのようには思いませんでした。教義を教えることで、自分自身が変わったのです。」

クラウディアとマルコ・ビリヤビセンシオ夫妻は、クラウディアが伝道に出る前から友達でした。伝道から帰って間もなく、二人は友人たちと一緒に神殿に参入しました。そのとき特別なことが起こりました。「まるで主がわたしの祈りにこたえてくださっているように感じました。この人となら結婚できると感じたのです」



とクラウディアは説明します。「良い夫を持つという、最もすばらしい祝福を頂いています。」

福音を実践する喜び

「幸福は物質的なものによって決まるのでありません」と、15歳のオスカル・レイエス兄弟は言います。「どのような生活を送るかで決まるのです。だからぼくは安息日を聖く保っています。神に喜ばれることだからです。また同じ理由から、伝道に出ようと思っていますし、人に奉仕するのが好きなのです。」

福音に従って生活することによって、オレリャーナ支部の会員たちは眞の喜びを見出しています。「わたしはとても幸せです」とロウルデスは言います。「家族から遠く離れていますが、ここにも家族がいます。靈の家族です。わたしにはこの業について強い証があります。イエス・キリストが生きていて、わたしたちが従順であるなら、祝福してくださることを知っています。」

それは人生でどんな困難に直面しようとも彼らの生活に満ちあふれている喜びです。義にかなった生活を送ることで得られる喜びなのです。■

注

1.ゴードン・B・ヒンクレー「改宗者と若い男性について」
『聖徒の道』1997年7月号、56参照



ペルト・フランシスコ・デ・オレリャーナ（エクアドル）

トから東へ60マイル(100キロ)ほど行くと、巨大な火山とアンデス山脈が終わり、緑豊かな熱帯気候のオレリャーナ県に入ります。広大な森林の間を縫って、大小の河川があらゆる方向に流れています。この地にはオウムやオオハシ、そのほか非常に多種の鳥が生息しています。さらにサルやナマケモノ、アルマジロやカピバラ、そして驚くことにピンクイルカさえも目にすることができます。

オレリャーナ県は1990年代末に石油の探鉱を支えるために設けられました。小さな集落がほぼ一夜にして街に姿を変えました。ペルト・フランシスコ・デ・オレリャーナは、ナポ川、コカ川、パヤミノ川の合流点にあります。今日、この街と周辺地域には約8万人が住んでいます。





兄ジャスティンの
助けを得ながら
初等協会で話をする、
ダウン症の6歳の
コートニー・T。
教会の手引きでは、
「レッスンや話、
教授法は
各人の必要に
合わせたものに
調整するべきである」と
教えられています。

この子をどのように 助けましょうか

ダニエーレ・ファーガソン

初等協会に認知障がいのある子供たちはいませんか。その子供たちを教えるのに役立つアイデアを幾つかご紹介します。

初 等協会には、自閉症やダウン症、注意欠陥／多動性障がい（ADHD）などの認知障がいのある子供の助ける方がよく分からずという教師や指導者が大勢います。彼らはこう尋ねるかもしれません。「この子をどのように教えればよいでしょうか。」「同じ年齢のほかの子供たちと同じクラスにいる方がいいのでしょうか。」「分かち合いの時間や活動に参加できるでしょうか。」

わたしは自閉症の息子を持つ母親として、また認知障がいがある子供たちの初等協会教師として、こうした子供たちの必要を満たすことについて、たくさん学んできました。次に紹介する原則は、わたしが学んできたことの一部です。あなたがワードや支部の初等協会の子供全員に手を差し伸べて助け、参加させるために、これが役に立てば幸いです。

イエスが行われたように行う

救い主は個人の必要に合うように御自分のメッセージと行動を変えることによって、人に仕える方法をわたしたちに



この記事の筆者ダニエーレ・ファーガソンと
自閉症の息子アイザック

示してくださいました。¹ 例えば、救い主はニーファイ人を訪れたとき、「一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られ」ました（3 ニーファイ 17:21。強調付加）。次いで、天使たちが天の火を伴って「幼い子供たちを取り囲み、……幼い子供たちに恵みを施し」ました（3 ニーファイ 17:24）。

わたしたちはどの子供を教えるときにも、主の務めに携わっているのです。十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、次のことをわたしたちに思い起こさせています。「貴い子供を託されている人が神聖で高貴な管理人の職を受けられているのは明らかです。なぜなら、その人々は今の時代の子供たちを、愛と信仰の炎と彼らの本質への理解をもって包み込むよう、神より任じられているからです。」² わたしたち

が障がいのある子供たちを助ける責任を果たすとき、主は、わたしたちが個人の状況に合わせて奉仕し教えることによって、彼らの必要を満たすことができるよう助けてくださるでしょう。

これらの必要をもっとよく理解するために、初等協会の教師と指導者は、その子供と両親に会うとよいでしょう。教師にとってそれは、その子供と親しくなるのに良い機会です。知り合うための最良の場所は子供の家庭であるということがよくあります。子供は自分の家ではくつろぎ、新しい人々ともっとつながりを持とうとするものです。

エミリー・Sと
こうはんせい
広汎性発達障がいのある
4歳の息子ランドン。
初等協会会長
デブラ・マルーフと一緒に、
ランドンが好きなこと、
彼を教えるのに
効果的な方法について
話し合っています。
障がいのある子供への
働きかけは、
その子供と両親と指導者が
一つになって
協力する気持ちをもって
取り組むときに
最善の結果を
得ることができます。



知識を得て、一緒に取り組む

教師と指導者は子供の障がいについて学ぶ時間を見る必要があります。まず始めに、教会のウェブサイト [lds.org/disability](https://www.lds.org/disability) を見ることから始めましょう（幾つかの言語で利用できます）。特定の障がいについて概要を読み、教え方のヒントを学び、さらに多くの資料を見つけることができます。

ウェブサイトで調べた後、教師と指導者はもう一度子供の両親に会って、考えていることを共有し、懸念事項について話し合い、目標を設定することができます。両親は、子供の意思の伝え方、子供が楽しめる活動と避けた方がよい活動、また適切な行動が取れるようにする励まし方について分かっていることなど、教師が効果的に助けるのに役立つ情報を伝えることができます。思いを一つにし、協力し、また障がいのある子供に最善の助けを与えるのに必要な情報交換を継続的に行うには、両親と一緒に取り組むことが不可欠です。

また、教師と指導者は、子供を助ける方法を新たに考えるとき、神権指導者に相談しなければなりません。最初に息子が自閉症と診断されたとき、彼が同じ年齢の子供たちと一緒にどれほどスムーズに託児から初等協会のクラスに移れるのか、わたしたちは分かりませんでした。学校の教師であるワードの一人の姉妹が、ビショップと初等協会会長に息子への付き添いを買って出てくれました。初等協会会長とビショップリックの顧問、それにわたしたち夫婦は彼女に会いました。すると彼女は息子を助ける方法を話してくれました。わたしたちは目標を設定し、息子に初等協会で通

常行うことを理解させる計画を作りました。その後の3年間、しばしば計画を微調整する必要がありました。しかし、息子は自分の周囲の状況を理解するようになったとき、仲間と交流したりレッスンに参加したりすることにもっと関心を持つようになりました。息子は今も、この姉妹の理解と決意が築いた基礎の上に立ち続けています。彼女の愛と友情が彼に、自分は神の愛する子供であるということを教えたのです。そのおかげで息子は今でも教会を、本来の自分になり愛されるために行く場所であると考えています。

友情と信頼を築く

わたしたちは教師として、「救い主の模範に従って、障がいのある人々に希望を与え、彼らを理解し愛する」ことができます。³ 障がいのある子供たちに心からの関心を示すとき、互いの友情は深くなります。

認知障がいのある子供たちは、意思の伝え方がほかの子供たちとは異なっているかもしれません。教師はその子供に特有の意思の伝え方を活用するとき、信頼と友情を築き、もっと有効な働きをする教師になることができます。子供への意思の伝え方を改善する二つの方法は次のとおりです。

- **視線を子供と同じ高さにする。**⁴ 大人がこうすると、子供はあまり威圧感を覚えることがなく、受け入れられているともっと感じます。また、集団の場で集中するのが難しい子供たちにとって助けになります。教師や補佐する人は子供の注意を引き付け、クラスの時間中にレッスンに関して一つか二つの文章を定期的に伝えることができます。

- その子供が興味を持つものを見つける。子供は、自分の大好きなものに人が関心を示すとき、自分は尊重されていると感じます。障がいのある子供たちは、特定の玩具、動物、ゲームなど、ある決まったものに愛着を持つことがあります。教師は、興味のあるものについて子供に話してもらい、その興味のあるものを取り入れたレッスンをすることができます。子供が話さない場合でも、教師はその子供の関心を聞くものについて話すことができます。

溶け込ませる

ほとんどの場合、認知障がいのある子供は、通常の初等協会のクラスに行くようにする必要があります。これはその子供にとっても同じ年齢の子供たちにとっても重要なことです。同じクラスにすることは、その子供が適切な社会性を身に付け教会での振る舞いについて学ぶ助けになり、また青少年クラスに移行する準備になります。同じ年齢の子供たちは、一緒にクラスにいることで、奉仕の機会を得、また障がいのある子供たちが持つ独特な物の見方を経験によって知ることができます。一緒に過ごすことで友情もはぐくまれます。友情は教会で受け入れられ必要とされているという気持ちを感じるのに重要です。

息子が保育園の年齢のとき、一人の女の子が初等協会でよく彼の隣に座ってくれました。息子がクラスを欠席すると、彼のためにカードを作ったり絵を描いてくれたりしました。息子はその子の名前をわたしたちに言えませんでしたが、彼女の手を取り「ぼくの友達」と呼んだものです。二人が友達になったことで、彼女は奉仕する機会を得、彼は教会に出席するのが楽しくなりました。

友情を築きやすくするために、親か教師が、クラスの最初の日にその子供をほかの子供たちに紹介し、個人としてその子供について話すとよいでしょう。すなわち、才能や特技、好きな活動について話します。その後、ほかの子供たちがその子供に必要なものと、普通ではなく思えるその子供の行動を理解できるように、障がいについて話すことができます。多くの場合、両親と教会指導者がこれらのこ



認知障がいのある子供と同年齢の子供たちが初等協会のクラスと一緒に出席することは、双方にとって有益です。
オーデリー・S がアイザックと一緒に聖典を読んでいます。

とを隠し立てせずに説明すれば、子供たちはもっと気軽に友達になります。

その子供がもっと参加できるようにするための計画を初等協会教師が考えるとときに、助けを得ることのできる専門知識のある人と連絡を取るとよいでしょう。その子供の学校教師が快く両親と初等協会指導者に会って、学校でその子供のために効果を上げた方法を教えてくれるということが時々あります。実地の手本を示すために快く教会に出席してくれるかもしれません。

場合によっては、例外的にその子供を個別に教えることもできます。あるいはそのほかの方法を取ることも可能です。LDS.org の “Serving in the Church”（教会での奉仕）の “Primary”（初等協会）のセクション〔英語〕には、このことに関してさらに多くの情報が掲載されています。⁵

クラスで支援する

どの初等協会のクラスでも、すべての子供の必要を満たすのは容易ではありません。障がいのある子供がクラスにいる場合、もう一人の教師または助ける人を召す必要があるかもしれません。二人の教師が交代で、一人がレッスンを教え、もう一人が障がいのある子供を助けています。あるいは、障がいのある子供を特に担当する人を召すこともできます。初等協会の役員教師は、レッスンスケジュールを調整し、相互に連絡を取り合えるようにし、様々な状況が発生した場合の対応方法について話し合わなければなりません。協力態勢をしっかりと組み、生徒が啓発されるようなレッスンをするには、いつものとおりに、祈り、連絡を取り合い、計画することが非常に重要です。

もう一人の教師あるいは助ける人を召すときは、両親は子供の世話をし、1日24時間障がいのある子供を育てることで様々な難しい問題に取り組んでいるということを考慮に入れてください。両親は日曜学校のクラスに出席するか、ほかの召しに携わる機会が必要かもしれません。この短い休息は、彼らが新たな活力を得るのに、また次の1週間の問題に応じる備えをするのに助けとなるかもしれません。

自閉症の4歳の
ブルックリン・C
(左から3人目)は、
初等協会の歌の時間が
大好きです。
彼女はいつも音楽に
興味を示してきたと
両親は語ります。
触覚を使う指遊びには、
ブルックリンも
ほかの子供たちも
さらに興味を示します。



レッスンプランを調整する

教会の手引きでは次のように教えられています。「指導者や教師は、障がいのある会員ができるかぎりすべての集会やクラス、活動に参加させるべきである。レッスンや話、教授法は各人の必要に合わせたものに調整するべきである。」⁶ クラスの一人一人の必要を満たす方法でレッスンを教えるためには、祈りと創造性と努力が必要です。

まず、その子供が最もよく学べる方法を見つけます。lds.org/disability の “Leaders and Teachers” (指導者と教師) のリンクには、レッスンの調整についての情報が紹介されています。それぞれの障がいの見出しの下に追加の提案が記されています。LDS.org の “Serving in the Church” の “Primary” のセクションはもう一つのすばらしいリソースです。障がいのある子供のために行う調整は、ほかの子供たちにとっても同様に役立つでしょう。次の方法はわたしに役立ったものです。

- **視覚**——多くの子供は目で見ることによって学びます。つまり、絵や実物が概念を理解するのに助けになるということです。もう一人の教師か助ける人が障がいのある子供の傍らに座り、レッスンの間、何が教えられているかを図や絵に描いて見せます。子供自身が描くのが好きであれば、その子を助ける人に描いて見せるための紙が欲しいかもしれません。また、レッスンで述べられることを

一緒に描くこともできます。

- **聴覚**——聞くことによって学ぶ子供は、物語を喜んで聞きます。また、教師が、ささやいたり、驚いて息を止めたり、わくわくするような場面では少し早口で言ったりなど、自分の声を使って物語を生き生きとしたものにすると、子供は喜びます。教師はレッスンの物語を単純化し、短くする必要があるかもしれません。そうすれば、障がいのある子供は理解し、興味が持続します。物語を話し、次に物語から原則を探り上げ、実生活の状況あるいはその子供がよく知っている話や出来事に当てはめるとよいでしょう。
- **触覚**——触れることによって学ぶ子供は、実際の物を手に取って感触を味わうことに喜びを覚えます。レッスンが戸外の物語である場合、教師は滑らかな小石や小枝、縫いぐるみの動物などをクラスに持って来て、その物語を話すときに見せ、それをクラス内に回して、全員が手に取って観察できるようにします。工作や塗り絵の紙も触れることのできる有益なものです。

分かち合いの時間とその他の活動に参加する

障がいのある子供たちにとって大切なのが参加です。聖句を読むことや祈ること、また分かち合いの時間の話の割り当てに組み入れる方法を、創造性を働かせて見つけてください。例えば、子供にとって話すのが難しい場合、絵を

使って伝えることができます。また、演壇に立ちたいと思っても、内気であったり、気が乗らなかったりして話さない子供もいます。この場合、その子供に演壇に立ってそこでわくわくした気持ちを感じてもらい、親が横で語る言葉を聞いて繰り返して言ってもらいます。親は子供が話している間、絵を持っていたり、いつ腕を組んで祈ればよいかの手本になったりして助けることができます。

そのほかの活動や考慮するとよい調整事項は次のとおりです。

- **聖餐会での初等協会の発表。** 聖餐会での発表はいつも行っていることとは違うため、障がいのある子供には特別な支援と柔軟性が必要かもしれません。何度か練習に参加すると、変化に対応するのに助けになります。歌や話の割り当ての前に手助けができるように、子供の隣にその子を助ける人が座るのは良い方法です。子供が物音や、会衆の前で注目を浴びることで緊張しやすい場合、子供とその子を助ける人のために前列に近い一般席を確保します。こうすれば、塗り絵をすることも、絵本を見ることも、ほかの子供たちの注意をそらすことなく席を立ってホールで休憩することもできます。また、前に出て自分の割り当ての言葉を言ったり歌ったりした後、席に戻って落ち着くことができます。また壇上に座っていることは大丈夫でも、2、3個のペーパークリップや滑らかな小石など、ひざの上に何か触れる物を置いておきたい子供もいます。大勢の中で集中するのが難しい子供たちのためにはこれが役立ちます。

- **分かち合いの時間。** 分かち合いの時間を担当する割り当てが子供のクラスにある場合、障がいのある子供がくつろいだ雰囲気で参加できるようにします。クラスが寸劇を行う場合、その子供にせりふの短い役、あるいはせりふのない役をさせるとよいでしょう。しかし、ほかの子供たちと同じ衣装にするだけで、自分も一員であると感じるのに役立ちます。ほかの子供たちとの関係を深めるために経験を共

有させることが大切です。

- **特別プログラム。** 初等協会がワードや支部のタレントショーやクリスマスプログラムなどの活動に参加する予定であり、障がいのある子供にとって大きな物音や混み合った部屋が問題となる場合、その子供のクラスをプログラムの最初に参加させます。そうすれば、子供が困惑する前に、両親は子供を家に連れて帰ることができます。

祝福を刈り取る

自閉症の息子のおかげで、わたしは神の子供であるとはどういうことなのか、これまでにない見方ができるようになりました。天の御父が実にわたしたち一人一人を御存じで、愛してくださっていることが分かりました。天の御父はわたしたちに何が必要かを御存じであり、聖靈を通して親と指導者に促しを与えて、わたしたちが家族と子供の世話をし、その人生に祝福をもたらすことができるようにしてくださっています。さらにわたしは、時間を取って息子の友達になってくれた初等協会の教師と教会指導者に深い感謝と愛を抱くようになりました。この人たちは救い主の愛のすばらしい模範です。

認知障がいのある子供を教えるには、特別な時間と努力が必要であり、時々落胆することもあります。しかし、わたしたちはこうした特別な子供たちを助ける管理人の職を果たすとき、祈りと靈感と主への信頼によって成功を収めることができます。 ■

注

1. 例として、マタイ 8:1-17; 9:1-13, 18-38 参照
2. M・ラッセル・バラード「汝らの子供たちを見よ」『聖徒の道』1994年10月号、40
3. 『手引き 第2部——教会の管理運営』(2010年) 21.1.26
4. 『教師、その大いなる召し』(1999年) 71 参照
5. "Teaching All Children, Including Those with Disabilities," lds.org/pa/display/0,17884,5727-1,00.html 参照
6. 『手引き 第2部』21.1.26



教会の手引きからの指針

教会の手引きには、教師と指導者が障がいのある人を助けるときに役立つすばらしい情報が記されています。『手引き 第2部——教会の管理運営』の「障がいのある会員」(21.1.26) の項には指針が載っており、またよく問い合わせのある事項に対する答えが記されています。補助組織に関する章にも追加の指示が記されています。『手引き 第1部』には、バプテスマに関する指針を含む神権指導者のための指示が載っています。すべての該当箇所については、索引の「障がい」を参照してください。

この本はあなたが下さったのですか？

当時 21 歳になったばかりのわたしは、地元のスキー場のレストランでウェイトレスとして働いていました。ある日の午後、食堂の掃除を終えたところへ同僚の一人がやって来て、1 冊の本を手渡し、持っていてほしいと言いました。わたしはお礼を言ってそれを受け取りました。

表紙を見るとモルモン書と書いてあります。好奇心をそそられ、調理場に入ってじっくり見てみることにしました。表紙の内側にわたしへのメッセージが書かれているのに気づきました。そこには、モルモン書はイエス・キリストの福音が記された真実の書物で、わたしが感銘を受けるに違いないでしょうと記されていました。それで、すぐに読み始めました。

読んでいくうちに、これまで感じたことのない平安な気持ちに包まれました。これまで、聖書以外のどんな本を読んでいるときにも、そのような気持ちを感じたことがありませんでした。最初はほんの数ページ読んでみるつもりだったのが、あっという間に数章を読み進み、そのうち本を下に置くことができなくなりました。そしてニーファイ第一書第 15 章 11 節の次のような言葉に出会いました。「主が言われたことを覚えていないのですか。主は、『もしあなたがたが心をかたくなにせず、わたしの戒めを熱心に守りながら、答えを与えると信じて信仰をもってわたしに求めれば、これらのこととは必ずあなたがたに明らかにされる』と言わされました。」

この本が真実かどうか確かめずにはいられなくなりました。でも、神にどのように祈ればよいのか分からなかったので、ただ調理場の天井を仰いで尋ねました。「この本はあなたが下さった

のですか。」「そうです。」即座に力強い答えを受けたと感じました。「すご

いわ、それなら最後まで読んでみなくちゃ」と思ったのを覚えています。

3 か月後にモルモン書を読み終えたわたしは、カリフォルニアに住む父を



同僚は 1 冊の本を差し出し、持っていてほしいと言いました。
わたしは好奇心にかられました。

訪ねるために車を走らせていました。父の家からそう遠くない所まで来たとき、正面にモザイク装飾が施された建物の前を通り過ぎたのに気づきました。急いで引き返し、駐車場に車を乗り入れました。建物の外に一人の男性の姿が見えました。

「あなたの教会では、リーハイが見た命の木の示現について、何と教えてくれるんですか」とわたしは尋ねました。すると男性は、自分が所属する末日聖徒イエス・キリスト教会について説明してくれました。わたしは車から自分のモルモン書を取って来て、読みながら印を付けておいたすべての節について、質問し始めました。彼はわたしを落ち着かせると、教会には宣教師がいて、彼らはわたしが持っているような多くの疑問に答えるために自分の人生のうちの2年間をささげていると説明してくれました。

その男性に父の住所を伝えると、数日後に二人の長老が訪問してくれました。長老たちがわたしの質問すべてに熱心に答えてくれたのには感動しました。さらに感銘を受けたのは、教えられた新しい概念について、すでに知っている事柄を再び思い起こしているような懐かしさを感じたことです。5週間後、わたしはバプテスマを受けて教会の会員になりました。

あれから32年がたちましたが、今も毎日モルモン書を読んでいます。モルモン書は、わたしたち家族にとって、これまで常に光と導きの源でした。神の御言葉みことばを金版に刻んだ古代の預言者たちや、真理の教えを翻訳し出版するために迫害と試練を耐え忍んだジョセフ・スミス、そしてあの日、勇気を出してわたしにモルモン書をくれた同僚に感謝せずにいられません。■

シンシア・アン・リー
(アメリカ合衆国、ネバダ州)

平安をもたらしてくれた福音

わたしが6歳のときに家族は教会員になりました。そして8歳のときに、神殿で結び固めの儀式を受けました。新たに学んだ信仰の教義について両親が熱心に教えてくれたので、わたしは祈りや個人の聖典学習、そのほか福音が持つ様々な側面が大きな平安をもたらすことを学びながら成長しました。

しかし、実際に救いの計画について正しく理解するようになったのは、伝道に出てからのことでした。オーストラリアで伝道中、父が他界しました。父の死を伝えるために伝道部会長がわたしのもとを訪れたとき、神権の祝福を与えてくれました。それは救いの計画についてたくさんのが述べられたものでした。その祝福に加えて、その後数週間、数か月と毎日個人の聖文研究を続けたおかげで、この偉大な教義についてかつてないほど深く学び理解することができたのです。自分の状況を救いの計画がもたらす光を通して

見ることによって、それがどれほどすばらしいものかを理解できるようになりました。それ以来、救いの計画はわたしにとって大変重要なものになりました。

伝道に出てからずっと聖典学習を続けてきた結果、神の御言葉の大半はその「偉大な幸福の計画」を証するものであることを知りました(アルマ42:8)。死後の世界は存在しています。そして地上での暮らしの後、愛する人々とまた一緒に暮らすことができます。母や父やきょうだいと結び固められていることを知っているので、わたしには大きな慰めがあります。

地上では確かにつらい経験をしますが、人生そのものがつらいものになる必要はありません。イエス・キリストの福音によって、物事はずつと容易になります。ですから人生で何があろうと、福音のおかげで、いつでも平安と慰めを得ることができます。■

シーナ・ロジャーズ(ニュージーランド)



父の死を伝えるために
伝道部会長が
わたしのもとを訪れたとき、
神権の祝福を
与えてくれました。
それは
救いの計画について
たくさんのが
述べられたものでした。

作物が凍ってしまうよ

わたしたち家族はユタ州ローガン神殿で結び固めの儀式を受ける準備をしていたとき、イエス・キリストの福音に従った生活をする決意を新たにしました。中でも特に什分の一を必ず納めると主に約束しました。結び固めの儀式を受けてから間もなく、わたしたちはアメリカ合衆国のワイオミング州に引っ越し、農業を始めることにしました。

数エーカーを
まき終えたところに、
地元の牧場主が
やって来て
「時期が遅すぎる」
と言いました。

300 エーカー（121 ヘクタール）の農地の準備に取りかかったのは 4 月も下旬でした。自生するヤマヨモギを焼き、土地をならし、溝を掘りました。ようやく種まきを開始したころには、すでに種まきのシーズンが過ぎていたので、生育の早い大麦をまくことにしました。

数エーカーをまき終えたところに、地元の牧場主がやって来て言いました。「君たちのつぎ込んだ時間と労力とお

金は無駄骨だよ。今からじゃ遅すぎて、8月 21 日ごろには作物が凍ってしまうよ。」

彼は土を一握りすくい上げると続けてこう言いました。「君たちが土を掘り起こして焼き払い、地ならしをしたせいで、すっかり干上がってしまっている。水分がなければ、種は芽を出さないよ。」

土が乾き切っていることは分かっていましたが、すでに多額の資金をこの作物につぎ込んでいたので、そのまま種まきを続けることにしました。全力



を尽くして農地を整え、什分の一を完全に納めていたので、天の御父が助けてくださるという信仰がありました。種まきをすっかり終えると、家族とともにひざまずき、助けを願って祈りました。

翌日になると雨が降り出しました。丘地にまいた種が押し流されることもなく、土が十分な湿り気を含んで柔らかくなるのに最適の穏やかな雨でした。わたしたちの熱烈な祈りも、長くつらい労働の日々も無駄ではありませんでした。

春から夏にかけて、1週間に6日、毎日12時間から14時間かけて、灌漑^{かんがい}、柵^{さく}囲い^い、収穫の準備を行いました。それに主と約束したとおりに、什分の一を納め、ワードの召しを熱心に果たしました。穀物は見事に、そして豊かに実りました。大麦の穂は大地から勢いよく伸びていました。ところが大麦の生育期の終盤が近づくにつれ、気温が大幅に下がり、作物がやられてしまうのではないかという不安に駆られるようになりました。わたしたちは、主に作物を守ってくださるよう祈りました。そして什分の一を納める人への次のような約束を主が果たしてくださるという信仰を持ちました。「わたしは食い減ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、減ぼさないようにしよう。」(マラキ3:11)

恐れていた8月21日が霜の訪れとともにやってきました。それでも、翌日畑に行つてみると、作物は無事でした。数週間後に収穫された大麦は、何台ものトラックに山積みになるほどで、多くの収益を上げることができました。

翌年の夏になると、ヤマヨモギが自生するくすんだ風景の中にアルファルファと大麦畑の緑が鮮やかに映っていました。8月の半ばを過ぎたある日のことです。灌漑^{かんがい}の最中に、辺りが暗くなるほど大きな嵐^{あらし}が近づいて来るのが

見えました。「まさか。竈^{ひょう}だなんて。」作物が危険にさらされていることを知ったわたしは、畑にひざまずき祈りました。嵐はすぐにやってきました。竈が畑の北側と南側に降って来るのが見えました。北側の囲い沿いを歩いてみると、囲いの内側すれすれに竈が落ちていましたが、それ以上内側には落ちていませんでした。そこで急いで南側の囲い沿いを歩いてみましたが、竈が襲ったのはまさに囲いに沿って外側だけだったのです。我が家家の穀物にはまったく被害が及んでいませんでした。

近隣の人々は、わたしたちの幸運に感動していました。わたしはマラキの「万国の人は、あなたがたを祝福された者となえるであろう」という言葉を思い出しました(マラキ3:12)。確かにわたしたちは祝福されました。全力を尽くして神の戒めに従うとき、主は約束を守ってくださいます。わたしはそのことに感謝しています。■

ベン・E・ファウラー(アメリカ合衆国、ユタ州)

わたしの宮へ ようこそ

19 97年11月に、わたしはチリのコンセプション伝道部に召されることになりましたが、間もなくして、神殿に参入してさらに光と知識を得たいという望みを自覚するようになりました。ところがその後、不安が幾つか頭をもたげ始めたのです。自分は弱く不完全であるのに、ほんとうに神殿の参入にふさわしいのでしょうか。いつも主に背いてきたわたしを、主は両手を広げてほんとうに迎え入れてくださるでしょうか。

ステーク会長にこの不安について話したところ、生活を整え、学んだことを残らず実行する努力を怠らないなら、

主の宮に入るふさわしさを身に付けられると教えてくれました。それを聞いてほっとしたわたしは、チリのサンティアゴにある宣教師訓練センターに旅立ちました。ところが、神殿に向かう数時間前になって、また不安がよみがえってきました。

神殿の内部はあまりにも美しく平安に満ちていたので、そこにいればいるほど自分がその場にふさわしくないよう思えてきました。その後、日の栄えの部屋に入ると、わたし以外の人は皆、幸せそうで光り輝いて見えました。しかし部屋から出ようと扉の取っ手に手をかけたとき、不思議な感覚に包まれて、そこにとどまるべきだと感じました。さらに背後からだれかがわたしの左肩に手を置いて振り向かせようとしているように感じました。そこでわたしはゆっくりと向きを変えました。

壁にかけられている大きな絵には再臨されるイエス・キリストの姿が描かれており、その両腕は大きく広げられていました。わたしはその場に釘付けになりました。それから心の中にはっきりと次のような言葉が聞こえてきました。「わたしの宮へようこそ。」

温かい気持ちが全身を満たし、目から涙がこぼれ始めました。「ありがとうございます」という言葉以外、何一つ思い浮かべることができませんでした。

わたしは数分の間泣き続けました。救い主への感謝の気持ちで心がいっぱいになりました。自分が弱く不完全であるという思いは変わらなくても、主がわたしを愛しておられ、強めてくださることを知ったのです。

あれから多くの年月が流れましたが、神殿に行く度にあの日の喜びが「わたしの宮へようこそ」という慰めの言葉とともによみがえってきます。■

カリナ・ダニエラ・バス(アルゼンチン、サルタ)

中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック



これは 皆さんの業です

皆さんは家族歴史と
神殿の業をするために必要な
科学技術の才能をもって
特別に備えられた世代です。

預言者アブラハムは、今日のヤングアダルトが経験するような変化を経験しました。高価な真珠の中に彼についてこう書かれています。「わたしの先祖が住んでいたカルデヤ人の地において、わたしアブラハムは、別の居住の地を得ることが自分にとって必要であるのを知った。」(アブラハム1:1) ア布拉ハムにとって、両親から離れ、大人としての生活を始める時期が近づいていました。ア布拉ハムは現在手にしているよりも「さらに大いなる幸福と平安と安息」があることを知っていました。

ア布拉ハムはさらに大いなる幸福と平安と安息を求め、手にしました。それは、ヤングアダルトも含め、教会のすべての会員が手にすることのできるものです。それを受けるために皆さんはどのように備えていますか。今皆さんに行っていることの一つ、すなわち神殿と家族歴史の業に参加することについて話します。

末日聖徒である皆さんは、神殿と神殿の儀式の大切さについて繰り返し学んできたことでしょう。何世紀にもわたって、多くの人が福音を知らずにこの世を去りました。その人々は、

皆さんの近親者または遠縁に当たる人々です。彼らは、皆さんが家族を一つにつなげるために必要な情報を調べて自分たちの身代わりに神殿で救いの儀式を受けてくれるのを、心待ちにしています。

科学技術の知識を幾らか持っていると、神殿と家族歴史の業を行う際に役立ちます。皆さんはこの業を行うために必要な科学技術の才能をもって特別に備えられた世代です。祖母のバンガーターは、家族歴史の業を早急に進めなければならないという強い証と意識を持っていました。随分前に祖母が2万5,000人の親族の名前をまとめたときは、用紙に一人一人の名前を手書きで記入しなければなりませんでした。コンピュータープログラムの助けによって、より正確に効率よく作業ができたら、祖母はどれほど感謝したことでしょう。今では祖母には、幕のこちら側から祖母の働きを支えることができる才能あふれる若者が子孫に何百人もいます。

主は、先祖に与えられた約束を皆さん的心に植え、また皆さんのが先祖に向けられ、主が来るとき地球がことごとく荒廃することのないようにすると約束されました(教義と聖約2:2-3参照)。皆さんの専門技術はこの預言の部分的な成就ですから、皆さんがこの業を早急に進めていく必要があると感じるよう望んでいます。皆さんは、この時代にあって神殿と家族歴史の業を行うために生まれてきたのです。



皆さん、この時代にあって
神殿と家族歴史の業を
行うために生まれてきたのです。
皆さんのがこの業を
早急に進めていく必要があると
感じるよう望んでいます。

皆さんの家族は皆さんの助けを必要としています。この重要な責任において、皆さんのワードや支部も皆さんの助けを必要としています。

神殿と家族歴史の業に参加することによって、皆さんは個人的な祝福を得ることができます。その一つは、皆さんが主の前にふさわしいことを示す神殿推薦状を受ける資格を得られることです。神殿推薦状は従順の象徴です。

大管長会の最近の指導により、神殿推薦状を入手しエンダウメントを受けることに関する方針が明確になりました。そこで改めて言われたことは、自身のエンダウメントを受けるのは重大なことであり、エンダウメントが授けられるのは十分な備えをし、神殿で交わす聖約を守れるほど成熟した人のみだということです。また大管長会は、10代後半または20代前半の独身会員で、伝道の召しを受けておらず、神殿結婚の予定もない場合、自身のエンダウメントを受けるために神殿に入るよう推薦されるべきではないと再度言いました。¹ ただし、12歳以上のふさわしい会員は皆、限定推薦状を受け、死者のためのバプテスマを受けることができます。

現在、推薦状を所持する特権を受けるにふさわしくない人は、ビショップまたは支部会長とできるだけ早く話し合い、推薦状を受ける資格を得るとよいでしょう。この重要な証明書を必ず携えるようにしてください。

あがな
贖いは現実であり、罪は適切な悔い改め
ゆる
によって赦されることを証します。

皆さんは、神殿でより多くの儀式が行われるのを助けることができます。神殿と家族歴史の業は皆さんの業です。皆さんの肩にかかるついているのです。皆さんだからこそ、そのエネルギーと技術で多くのことを成し遂げられるのです。

神殿と家族歴史の業に参加すると、確か

みたまに御靈を受けて、難局にあって励ましを得、重大な決断を下すに当たつて導きを受けることができます。この業に個人で、ワードやインスティテュートのグループで、また扶助協会、神権定員会で参加するとき、すばらしい友人関係を築き、意義深い社会経験をすることでしょう。皆さんにはさらに多くの知りあいや友人を得、御靈が皆さんとともに働くので、伴侶となる人を見つけ、永遠の家族を築く可能性が高くなるでしょう。

皆さんのが個人で、友達と一緒に、または定員会や扶助協会やインスティテュートのグループで参加するときに、神殿と家族歴史の業に参加することにより、皆さんにはシオンの山の救い手となることができます。神殿と家族歴史活動に携わることにより、一生を通じて皆さんにはさらに信仰を強め幸福になることができます。神殿と家族歴史の業は弟子のしるしであり、皆さんの将来の結婚生活と家族を強め、御靈を招きます。

イエス・キリストの回復された福音は真実です。この福音が真実であるがゆえに、多くのことが皆さんのような若い世代にかかっています。皆さんのがアブラハムのように義に従う者となり、この業に参加することによって先祖の祝福を求め、それによってより深い知識と幸福、平安と安息を見いだすよう願っています。■

2008年3月2日に開催されたヤングアダルトのための教会教育システムファイヤサイドから。

注

1. 2007年9月7日付大管長会の手紙参照

何ができるでしょうか？

以下のアイデアについて考えてみてください。

神殿に参入する

- 家族、ワードや支部の会員、インスティテュートのクラスメート、友達などを誘ってみる。
- 神殿の業にかかわるワードや支部の取り組みを支援する。
- 可能であれば、自分の先祖の名前を神殿に持って行く。
- 子供を持つ親が神殿に参入できるよう、ベビーシッターをする。

記録を集める

- 写真やスライド、ビデオテープなどの記録をデジタル化する。電子フォーマットで保存することにより、家族歴史を保護し、共有することができます。
- 家族の記録が正確か確認する。New.familysearch.org から始めるといいでしょう。オンライン・チュトリアルや、ワードまたは支部の家族歴史スペシャリストがサイトを活用できるよう助けてくれます。すでにこのサイトになじみがある場合は、ほかの人に使い方を教えるとよいでしょう。
- 旅の機会を利用する。先祖が住んでいた地域を訪れることがあれば、地元の墓地や図書館など、自分の先祖

について知るのに役立つ場所に行けるよう調整するとよいでしょう。

記録を作成する

- 日記をつける。
- 可能であれば、どこへ行くときにもカメラを携帯する。
- 索引作成(indexing.familysearch.org)の手順を学ぶ、または人に教える。索引作成とは、世界中の記録をオンラインで検索できるようにする作業です。
- 家族から、その人の人生で起きた重要な出来事について話を聞く。取材内容を記録しましょう。
- 家族ブログを開設する。テーマ(例えば「最も思い出深いクリスマス」など)を決めて家族に記事を投稿してもらいましょう。あるいは、写真や思い出を投稿してもらってもよいでしょう。
- 電子メール、電話、手紙により連絡を取り合い、家族関係をはぐくむ。可能なら家族で集まる計画を立てましょう。
- 地元の墓地を訪ねる計画を立てる。許可が得られるなら、同行者とともに墓石の写真を撮り、オンラインで写真を公開する。特に小さな墓地の場合は、絶好の奉仕の機会となります。



家族歴史への挑戦

クリスティーナ・アルベアール

わたしが通っているヤングアダルトワードのページビショップはまず始めに、家族歴史と神殿の業が親や祖父母だけのためのものではなく、わたしたちの世代の義務であると説明しました。また、わたしたちがこの時期に地上に送られた目的の一つでもあると言いました。次に、チャレンジが与えられました。ファミリーサーチ索引作成を行うというチャレンジです。実際に、ビショップはワードで10万名の名前を索引化しようと提案したのです。

ファミリーサーチ索引作成とは何ですか

教会は何年にもわたり、何百か国も の系図記録を収集してきました。そして記録の画像をコンピューターに取り込みました。現在、検索可能なオンライン索引を作成するため、ボランティアは記録のデジタル画像をダウンロードし、情報を転記することができます。そうすることにより、だれでも索引を familysearch.org で閲覧できるようになります。

索引作成プロジェクトは多くの言語で行われています。indexing.familysearch.org にアクセスし、あなたも索引作成者になりませんか。

途方もない作業量だと思いました。各自1,000名の名前を索引化する必要があります。それでもページビショップが「目標を達成するために力を尽くしてくれる人はいませんか」と尋ねると、全員が手を挙げました。

このチャレンジはすぐにわたしの生活の中で重要な位置を占めるようになりました。わたしはファミリーサーチ索引作成ソフトをダウンロードし、説明書を読み、作業を始めました。

初めは難しく思いました。手書きの文字は判読しづらいこともあります。しかし、名前の索引化を1件終える度に、自信がつきました。

わたしの家族はもともとはチリの出身なので、わたしはスペイン語の名前を索引化することにしました。この経験が特別なものだと感じたのは恐らくそのためでしょう。単に名前を入力しているようには感じませんでした。一つ一つの名前は、神殿の祝福を受けられる一人の人だと実感したからです。

程なくわたしは、索引作成の作業が日曜日にぴったりの活動だということに気づきました。家族から離れて暮らしていたわたしは、日曜日の集会が終わってからすることがあります。しかし索引作成のおかげで時間を有意義に使うことができ、おまけに作業しながら音楽や説教を聴くことができるのです。

ステーク会長が十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長の言葉を引用したときに、わたしのやる気は増しました。「神殿の業と、それを支える家族歴史の探究の仕事ほど、この教会にとって大きな守りとなるものはありません。またいかなる業もこの業ほどに人の靈を磨き、人に力を与える

ことはできません。……神殿の業はわたしたち個人にとっても、全体にとっても盾となり、守りとなります。」¹

ヤングアダルトは特に「敵対する者の……火の矢」の攻撃を受けているようですが(1ニーファイ15:24)、パッカー会長の言葉によればわたしは守られると約束されているのです。ワードの会員たちにも同じ祝福を受けてほしいという望みが強くなり、わたしは友人とともに索引作成会を開催しました。たくさんの人がノート型パソコンを持って来ました。すでに索引作成に詳しい人たちが自分のコンピューターを貸して、始めたばかりの人の質問に答えました。

その後数か月の間に、ワードの指導者もこの目標を達成するための活動を何度か開いてくれました。だれかが落胆したときには励まし合いました。ともに主に仕え、互いに仕えることにより一体感がはぐくまれたことにわたしは驚きました。

結局、たくさんの方が1,000名の索引化を完了しましたが、ワードで10万名を索引化するという目標は達成できませんでした。しかし、ビショップのチャレンジは単なる数字の問題ではありませんでした。このチャレンジにより、わたしたちは家族歴史についての証を得たのです。さらに、家族歴史の業を通して奉仕し、犠牲を払い、人の救いに携わったことで、清められるのを感じました。

主の業に携われたことに感謝しています。主の業を行うことにより、主をよりよく知ることもできました。■

注

1. ボイド・K・パッカー「聖なる神殿」「リアホナ」Ensign, 2010年10月号, 35

「わたしの両親は離婚しました。 時々、二人からそれぞれ 相反する助言を受けることがあるのですが、 どうしたらよいでしょうか。」

非

常に難しい状況です。離婚だけでも家族にとって大変な問題ですが、あなたはさらに、両方の親を敬いながらも両方の意には添えないという難題に直面しています。

可能であれば、あなたが困っていることを両親に話してみましょう。両親はあなたのためには一致してくれるかもしれません。二人とも考え方を変えようとしない場合は、説得力のある方の助言に従うとよいでしょう。ただし、戒めを破るよう求められる場合はこの限りではありません。

学校の合唱部に入るかバレーボール部に入るかといった、どちらの助言も良いが相いれないという場合はこうしてください。両親の意見をよく聞いた後でよく祈って決めるのです。天の御父は、聖霊を通して導いてくださいます。どちらかの親が疑問を投げかけたら、祈って最良だと思う決定をしたと思いやりをもって説明しましょう。

もし間違ったことをするよう助言を受けたときは、どうしたら正義を選ぶことができるかを考える必要があります。例えば、教会を休んで家と一緒に過ごそうと父親から言わされた場合、教会に出席した後に父親とも一緒に過ごせる方法を考えるとよいでしょう。正義を選ぶことは、両親を敬う一つの方法であることを覚えておいてください。

ビショップに尋ねる



ビショップまたは支部会長に勧告を求める事もできます。ビショップや支部会長は、わたしたちを助ける力を天の御父から授かっているため、大きな助けとなってくれるでしょう。両親の意見のいずれかを選ぶのは大変難しいことだと思いますが、それぞれの助言を慎重に分析して、あなたが前進し進歩するために最良のものを選ぶべきです。

ホセ・S, 17歳(ペルー、ラリベルタ)

対処能力を新たに身に付ける

難しく思える状況ですが、離婚に対処しながら良い家族生活を送ることはできます。離婚のように生活を変える出来事はつらい経験となることもあります。同時に自分の強みを知り、対処能力を新たに身に付ける

機会にもなります。対処法を知るために助けが必要な場合には、仲の良い親戚や学校のカウンセラー、ビショップに尋ねてみましょう。両親に話すことが難しければ、手紙を書いてみてください。

ジェームズ・P, 17歳(フィリピン、セブ)

導きを求めて祈る



わたしも同じ問題に直面したことがあります。相反する助言を受けたときは、いつもひざまずいて天の御父に祈り、どちらの意見を考慮すべきか尋ねました。ちょうど預言者ジョセフ・スミスがどの宗派が正しいのかを知るために行ったことと同じです。その都度明確な答えがあり、従るべき正しい助言がはっきり分かりました。

アニタ・O, 17歳(ガーナ、ウェスタン)

あなたが決めることです



助言が欲しいときに最も頼りにしている二人から相反することを言われたら、困ってしまいます。これからも様々な人から異なる意見を聞くことでしょう。しかしこのような状況では、両方の意見に耳を傾け、偏見を持たずにいる必要があります。そして結局は、最良で、主が同意してくださる方法を自分で決める必要があります。両親のどちらか一方を拒むことは容易ではありませんが、これは競争ではないことを覚えておきましょう。あなたが二人を愛していることに変わりはありませんし、両親も、あなたの決断が自分の提案どおりでなくても、あなたが正しい決断をした

ことを喜んでくれるでしょう。

ジャニース・H, 18歳
(アメリカ合衆国, ノースカロライナ州)

祈りは助けとなります



両親に助言を求めた事柄に関してすべてを知ることができるよう祈ってください。両親は物の見方が異なることがあります。天の御父はあなたが正しい決定を下せるように助けてくださいます。親の勧告は大切ですが、両親の意見が相反するときは天の御父に祈り、導きと勧告を求めてください。祈りは、そのような状況に対処するうえで常に役立ちます。

リア・H, 17歳
(アメリカ合衆国, カリフォルニア州)

ニーファイの模範に従う



宣教師として同じような状況の人々に出会っています。わたしはいつもニーファイの従順の模範について話すことにしています。ニーファイは両親から勧告を受けると、常にそれを実行に移しました。勧告が良いもので、神から与えられたものだったからです。ところが、ニーファイが弓を折ってしまったとき、父親たちは不平を言いました。ニーファイは、導きを求めて祈るよう模範により父親を導きました(1ニーファイ 16:18-25 参照)。これはわたしたちの手本となります。両親の助言は受けましょう。しかし、どちらかが主が望まれないことを勧めたなら、敬意を示しながら助言に従えない理由を伝える勇気を持ちましょう。従えない一番の理由は、正義を選び

たいと望むからです。

カピラ長老, 21歳
(コンゴ民主共和国・キンシャサ伝道部)

正しいことを知る



時折両親から異なる助言を受けることがありました。わたしはいつも何が正しいかが分かりました。わたしは教員の家庭に生まれました。真理を知っているので、どちらの勧告に従うべきか判断することができます。時には、天の御父に祈ってただ聖霊の静かな声に耳を傾けるか、ビショップのもとへ行きビショップの話に耳を傾ける必要があります。

エリカ・C, 18歳(ブラジル・バイア)

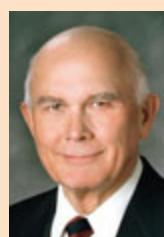
指導者に助けを求める

いつでも指導者に助けを求めることができます。主は青少年を啓発するために、すばらしい指導者を若い女性と若い男性の組織に送ってくださっています。指導者はあなたを助け、教えるために召されており、あなたが靈

感と答えを受けるきっかけを与えてくれます。同じ理由から、ビショップにも頼ることができます。この指導者たちは特に青少年を助けるために任命されたのです。

レベッカ・S, 15歳
(アメリカ合衆国、ワシントン州)

いや 癒しと希望



「離婚を経験したすべての人は、その苦痛を知っています。癒しの力と、贖いがもたらす希望を必要としています。その癒しの力と希望は、彼らと子供たちのためにあります。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オーカス長老
「離婚」「アホナ」および *Ensign*, 2007年5月号, 71

次回の質問

「友人に
心を傷つけられました。
赦すべきだと
分かってはいますが、
痛みを乗り越えるには
どうすればよいでしょう。」

あなたの意見をお聞かせください。2012年3月15日必着で liahona.lds.org に投稿するか、 liahona@ldschurch.org まで電子メールをお送りください。下記へ郵送することもできます。

Liahona, Questions & Answers 3/12
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、次の情報と同意文を必ず含めてください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載に対する同意文(18歳未満の場合は保護者が書いた同意文も必要です[電子メール可])。

あわ 主の深い憐れみ



十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老

この大切な賜物は、
わたしたちが忠実で従順でなければ
受けられることができません。
そして御心にかなったときに注がれるからこそ
認識できる場合が多いのです。

わたしはモルモン書に出てくる次の言葉を幾度となく思い巡らしてきました。「しかし見よ、主の深い憐れみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。」(1ニーファイ1:20)

主の深い憐れみが実在することを証します。それらは決して無作為に、あるいは偶然に注がれるものではありません。多くの場合、主の深い憐れみは御心にかなったときに受けるので、それらは識別し、認識しやすくなります。

主の深い憐れみとは何でしょうか

主の深い憐れみはきわめて個人的なものです。それは一人一人に応じた祝福、強さ、守り、確信、導き、愛にあふれた優しさ、慰め、支え、靈的な賜物であって、主イエス・キリストから与えられ、主だからこそお与えになることができ、主を通じて与えられるものです。主はまさに「人の子らの状態に応じて憐れみを」施されます(教義と聖約46:15)。

救い主が使徒たちに、あなたがたを見捨てて孤児とはしないとおっしゃったのを思い出してください。救い主は「別〔の〕助け主」

(ヨハネ14:16)、すなわち聖霊を送るだけではなく、御自身が彼らのところに来ると約束されました(ヨハネ14:18参照)。救い主がわたしたち一人一人のもとに来られる方法の一つは、主の豊かな深い憐れみを注ぐということです。例えば、皆さんやわたしが人生で問題や試練に直面した場合に信仰という賜物と、自分の力ではできないことを成し遂げられるという自信が与えられるのは、主の深い憐れみを表す二つの例です。悔い改めと罪の赦し、良心の平安も、主の深い憐れみの例といえます。また、物理的な限界や靈的な困難に直面するときに、忍耐と不屈の精神をもって元気に前進できるのも、主の深い憐れみによるものです。

最近、あるステーク大会で、2003年12月に夫をイラク戦争で亡くしたという、若い妻であり4人の子供の母親である女性が、感動的な証をしました。聞いていて、主の深い憐れみがあったことがはっきりと分かりました。この気丈な姉妹は、戦死を知らされた後で、夫からのクリスマスカードとメッセージを受け取ったそうです。そこには、まさにその時の彼女に必要な、優しさにあふれる言葉がありました。突きつけられた現実と劇的に変化する生活の真っただ中で、この言葉は、家族は永遠に一緒にいられるということをこの立派な姉妹に思い起こさせたのです。それは、家族は永遠に一緒にいられるという夫の言葉でした。許可を頂きましたので、そのクリスマスカードから直接引用します。

「世界一の家族へ。一緒にすばらしい時間を過ごして、クリスマスのほんとうの意味を思



この姉妹にとっては、最も必要としていた靈的な確信と証を与える言葉でした。多くの場合、主の御心にかなったときに初めて、主の深い憐れみを認識し、心に留められるようになります。

い出してください。主はわたしたちを永遠の家族にしてくださいました。だから、たとえ離れていても、わたしたちは一つです。

神様の祝福と守りがあって、このクリスマスをわたしたちから天のお父様への愛の贈り物とすることができますように。

心からの愛を込めて。パパ、そして愛する君の夫より」

もちろん、このクリスマスマッセージにある

「離れていても」という夫の言葉は、軍務のために家族と離れていることを指していました。しかしこの姉妹にとって、世を去った永遠の伴侶であり子供の父親である人からの、地から叫ぶ声であり、最も必要としていた靈的な確信と証を与える言葉でした。先に述べたように、主の深い憐れみは無作為に注がれるものでも、偶然に与えられるものでもありません。わたしたちの忠実さ、従順さ、謙遜さが、生活に主の深い憐れみを招き入れるのです。そして多くの場合、主の御心にかなったときに初めて、そうした重要な祝福を認識し、心に留められるようになるのです。

以前、ある神権指導者と話す機会がありました。彼はあるとき促しを感じて、ステークの13歳から21歳までの青少年の名前を全部覚えることにしました。そして若い男性と女性の写真を使ってカードを作り、仕事での移動中やそのほかのときに何度も見たのです。彼はすぐにすべての青少年の名前を覚えました。

ある晩この神権指導者は、写真でしか見たことのない一人の若い男性の夢を見ました。夢の中でこの若い男性はワイシャツを着て、宣教師の名札を着けていました。隣に座った同僚とともに家族を教えていました。この若い男性はモルモン書を手に取り、この書物は真実であると証しているように見えました。神権指導者はここで夢から覚めました。

その後神権者の集会が開かれた折、この指導者は夢に出て来た若者に声をかけ、しばらく話をしてもいいかと尋ねました。短く自己紹介した後、彼はこの若者の名前を呼んでこう言いました。「わたしはめったに夢を見な



主の深い憐れみは
無作為に、あるいは偶然に
示されるものではありません。
わたしたちの忠実さ、
従順さによって、
そうした重要な祝福が
受けられるように
なるのです。

いんだ。ステークの会員が夢に出て来たのは、君が初めてだよ。わたしが見た夢について説明するから、どういう意味なのか分かるよう�数字で教えてもらえないだろうか。」

神権指導者は夢の内容を話した後、何を意味しているか尋ねました。感動に声を詰まらせながら、若者はただこう答えました。「それは、神様がわたしを御存じだということです。」その後の会話は、実に意義深いものとなりました。そして、それから数か月の間、時折会って話そうと約束でした。

この若者は、靈感を受けた神権指導者を通じて主の深い憐れみを受けました。繰り返します。主の深い憐れみは、無作為に注がれるものでも、偶然に与えられるものでもありません。この大切な賜物は、わたしたちが忠実で従順でなければ受けることができません。そして

御心にかなったときに注がれるからこそ認識できる場合が多いのです。

主の深い憐れみの力を過小評価したり、軽々しく見過ごしたりするようなことがあってはなりません。主の深い憐れみの飾り気のなさ、麗しさ、そして普遍性は、現在と将来にわたる困難に満ちた時代にあって、わたしたちを強め、守るうえで、非常に大きな役割を果たします。必要な慰めや内なる喜びを言葉では表現できないとき、説明がつかないことを伝えようとするとき、人生の不公平や不平等が、論理や理性では理解できないとき、この世での経験や評価では、望ましい結果を十分に出せないとき、さらに、自分がまったく孤独に思えるとき、そのようなときこそ主の深い憐れみによって祝福を受けるのです。強くされ、自らを解放する力さえ与えられます（1ニーファイ1:20 参照）。

主の深い憐れみを受けるように選ばれた者はだれでしょうか

ニーファイ第一書第1章20節の選ばれたという言葉が、主の深い憐れみという概念を理解する鍵になります。辞書によれば、選ばれたという言葉には、選抜された、選び取られた、えり抜かれたという意味があります。また、神に選ばれた者を指して使われる場合もあります。¹

この話を聞いたり読んだりする人の中には、自分が主の深い憐れみを受けることはまずないと思っている人がいるかもしれません、それは間違いです。「自分は選ばれていないし、選ばれることなどあり得ない」と思っているのです。わたしたちは、そのような祝福や賜物がもっと義にかなっているように見える人や、教会の中で目立った奉仕をしている人のために取っておかれるのだと誤解してしまいます。主の深い憐れみはすべての人に及ぶものであり、イスラエルの贖い主はそのような賜物を授けたいと熱望しておられることを証します。

選ばれた者であること、選ばれた者となることは、限られた人にだけ与えられるものではありません。むしろ、選ばれるかどうかは、皆さんもわたしも最終的には自分で決めることがあります。次の聖句で、選ばれるという言葉がどのように使われているかに注目してください。

「まことに、召される者は多いが、選ばれる者は少ない。では、なぜ彼らは選ばれないであろうか。

それは、彼らがあまりにもこの世のものに執着し、人の誉れを得ることを望んでいる……からである。」(教義と聖約121:34-35、強調付加)

この聖句の意味するところは実に明快です。神は「お気に入りの名簿」など持っておらず、わたしたちはそこにいつか自分の名前が加えられるよう望む必要はないのです。神は「選ばれた者」を限定しておられるわけではありません。むしろ、神に選ばれた者となるかどうかを最終的に決めるのは、わたしたちの心であり、わたしたちの望みであり、わたしたちの従順なのです。

エノクは教義上のこの重要な点について主から教えを受けました。これから引用する聖句で選ぶという言葉がどのように使われているか注目してください。

「これらあなたの兄弟たちを見なさい。彼らはわたし自身の手で造られたものである。わたしは彼らを創造した日に、彼らに知識を与えた。また、エデンの園で人に選択の自由を与えた。

わたしはあなたの兄弟たちに語って、互いに愛し合うように、また父であるわたしを選ぶようにという戒めも与えた。」(モーセ7:32-33、強調付加)

これらの聖句から学べることは、選択の自由という賜物の根本的な目的は、互いに愛し合い、神を選ぶことにあるということです。だからこそ、選択の自由を使って神を選ぶとき、わたしたちは神の選ばれた者となり、神の深い憐れみを導き入れるのです。

最もよく知られ、度々引用される聖句の一つにモーセ書第1章39節があります。この聖句は永遠の御父の業を明確かつ簡潔に説明しています。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(強調付加)

これと対になる聖句が教義と聖約の中にあり、永遠の御父の息子や娘としてわたしたちが第一になすべきことを、同様に明確かつ簡潔に述べています。興味深いことに、こ

の聖句はそれほど有名ではなく、度々引用されることもあまりありません。「見よ、あなたの勢力と思いと力を尽くしてわたしの戒めを守ることが、あなたになすべきことである。」(教義と聖約11:20、強調付加)

以上のことから、御父の業とは、その子供たちの不死不滅と永遠の命をもたらすことであると分かります。わたしたちのなすべきことは、勢力と思いと力を尽くして神の戒めを守ることであり、それによって、わたしたちは選ばれた者となり、また聖霊を通して日々の生活の中で主の深い憐れみを受け、認識するようになります。

わたしたちは祝福されて、救い主の教会の指導者から靈感あふれる勧告を受けています。いずれの勧告も、この時代や、わたしたちを取り巻く環境、直面する問題に即した、実に時宜を得ています。わたしたちは教えを受け、高められ、啓発され、悔い改めるよう告げられ、強められています。皆さんと同じように、わたしは注意や勧告、靈感に従って行動したいと強く望んでいます。まことに、「主はすべてのものに恵みがあり、そのあわれみはすべてのみわざの上にあります。」(詩篇145:9)

わたしは、預言者ヨセフ・スミスを通してイエス・キリストの福音が回復されたこと、また、主の深い憐れみについての知識を今日頂いていることに感謝しています。望みと忠実さと従順が主の憐れみを招き、生活中でそれを認識できるようわたしたちを助けます。主の僕の一人として、イエスがキリストであり、わたしたちの贖い主、救い主であられることをはっきりと証します。主が生きておられること、主の深い憐れみがすべての人には差し伸べられていることを知っています。主の深い憐れみはだれの目にも、だれの耳にも明らかなものであり、この末日にわたしたちを強め、支えてくれるのであります。主の豊かで深い憐れみに対する感謝の念で心がいつも満たされますように。■

2005年4月の総大会説教から。

注

1.Oxford English Dictionary On-line, 第2版(1989年), "Chosen"の項

天の御父

わたしたちは、
教会員として生活し始めると、
天の御父について学びます。
初めて祈ったり、
初めて「神の子です」を歌ったり
することから学ぶのです
(『賛美歌』189番)。
末日聖徒が父なる神について
持っている知識は
ほかにはない独特なもので、
わたしたちの生活に
大きな影響を与えています。

神にまみえる

聖典には天の御父に会った人の話が載っています。例を3つ挙げましょう。

- ・ステパノ(使徒7:56参照)
- ・ジョセフ・スミス(ジョセフ・スミス一歴史1:17参照)
- ・ジョセフ・スミスとシドニー・リグドン(教義と聖約76:20参照)

しかし、イエスが言わされたように、「わたしを見た者は、父を見た」のです(ヨハネ14:9)。

実在し、独立して存在される御方

この教会の偉大で何よりも重要な教義の一つは、わたしたちが永遠の父なる神を信じているということです。神は実在し、独立して存在される御方です。また、宇宙の偉大な統治者であると同時に、わたしたちの御父であられ、わたしたちはその子供です。

わたしたちは神に祈ります。祈りは神と人との会話です。わたしは、神がわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださることを確信しています。】

ゴードン・B・ヒンクリー大管長(1910年-2008年)
「わたしの知っていること」「リアホナ」2007年5月号、83

唯一まことの神

「御父こそ唯一まことの神です。それは確かなことです。父なる神をしのぐ者はいませんし、父なる神に代わる者もいません。……この唯一の御方こそエロヒムであり、御父なのです。また、神であり、まさしく唯一無二の御方です。」

十二使徒定員会会长
ボイド・K・バッカーハー
「私たちの生まれ」
『聖徒の道』1985年1月号、67参照

御父の声を聞く

父なる神は、語るときに愛子イエス・キリストを証されます。例えば以下の場面で証されました。

- イエスのバプテスマで（マタイ 3:17 参照）
- 変貌の山でペテロ、ヤコブ、ヨハネに向けて（マタイ 17:5 参照）
- ニーファイへの示現の中で（2ニーファイ 31:11, 15 参照）
- イエスがアメリカ大陸に御姿を現されたときに（3ニーファイ 11:7 参照）
- 最初の示現で（ジョセフ・スミス—歴史 1:17 参照）

御父について明らかにするという救い主の使命

「主イエス・キリストは、……地上に来て語り行われたすべての事柄を通して、永遠の父なる神とはどのような御方なのか、御父が、あらゆる時代と国に住む御身の子供たちを、どれほど深く愛しておられるのかを示してこられたのです。御子は言葉と行いにより、**御自分の父親である天の御父の本質**を明らかにし、御父の本質を人が自分で理解できるよう努めておられたのです。」

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老
『偉大な神の性質』『リアホナ』2003年11月号、70

天の両親がおられる——すばらしい真理

「皆さんに愛されている賛美歌『神の子です』（『賛美歌』189番）の中で説かれている理念について、考えてみましょう。ここには『わたしは何者か』という人生の大切な質問への答えがあります。まさに人は神の子です。天におられる神の靈の子供なのです。**神の子なのですから、わたしたちには永遠の可能性があるのです**。この力強い理念は、落胆に対する特効薬となります。この理念はわたしたち一人一人を強め、正しい選択をし、わたしたちの内に秘められた最高の力を發揮する力を与えてくれます。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オーカス長老
『力強い理念』『聖徒の道』1996年1月号、27参照

父なる神に関する ジョセフ・スミスの教え

ジョセフ・スミスは神の眞の性質について多くのことを教えてくれました。天の御父とイエス・キリストにまみえ、多くの啓示を受けたからです。

神はどのような御方なのか 「神御自身、かつては今のわたしたちのようであられました。そして今は昇栄した御方であって、かなたの天で御座に着いておられます！」¹

御父はどのような御姿か 「御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。」² 「もし今日皆さんが神を目にしたならば、皆さんは神が人に似た形をしておられること、すなわち、……皆さん自身のようであられることを知るでしょう。」³

神は人とどのような関係にあられるのか 「神の性質を理解しなければ、人は自分自身を理解することができません。」⁴ 「宇宙の偉大な親である御方は、……人類を御自分の子供たちとして見ておられるのです。」⁵

神はなぜ人のために救いの計画をお立てになったのか 「神は御自身がもろもろの靈たちと栄光の中にいることを御覧になり、……ほかの者たちも御自分のように進歩する特権にあずかるように律法を定め〔されました〕。」⁶

神に近づく鍵は何か 「神の性質を理解し、神のもとに行く方法を知るとき、神はわたしたちに天の事柄を明らかにし……てくださいます。」⁷ ■

注

- 1.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』40
- 2.教義と聖約 130:22
- 3.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』40
- 4.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』40
- 5.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』39
- 6.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』210
- 7.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』40

高い標準の 歌声

聞き手——
ヒラリー・ワトキンス・レモン

ま ばゆい照明。熱狂的な歓声。フェイスブックには何千人のファン。17歳のゲルソン・サントスは、音楽の才能のある人を発掘するポルトガルのテレビ番組「アイドルズ」で、決勝に進む10人の中に残りました。この快挙を成し遂げると、有名になり、注目を浴びるようになったことに適応していかなければならなくなりました。ゲルソンはこのまたとない機会を大切にして福音を伝えることにしました。すると瞬く間にポルトガル中のメディアで、信仰についての質問に積極的に答える「モルモンの挑戦者」として知られるようになりました。

なぜ「アイドルズ」に出ようと思ったのですか。どんな準備をしましたか。

「アイドルズ」は大好きなテレビ番組で、楽しく見ていました。ぼくはもともと人前で歌うのが好きで、いつか歌のコンテストに出たいと思っていました。今年は迷わず出ることにしました。番組へは自分で申し込み、オーディションには父と一緒にきました。全生活をかけて「アイドルズ」に出る準備をしたと言ってもいいと思います。アイドルズに出る過程で経験したことはどれも例外なくすばらしいものでした。



どんなチャンスが来ても利用するよう努めました。

コンテストを通してどんな伝道の機会がありましたか。

ほかの出場者と一緒に夕食を取ったときに、宗教が少し話題になったことがあります。そこで、ぼくが信じていることや教会の標準について話したんです。信じていることをもっとよく理解してもらえるよう、後で『若人の強さのために』のパンフレットを決勝に出る全員に渡しました。教会の標準はすごく保守的だと思うと言った人もいましたが、今の時代にこんな高い標準を持っているなんてすごいと言ってくれる人もいました。

「アイドルズ」に出るためにたくさんの時間を割かなければならなかつたと思いますが、そんな中で教会の責任を果たす時間はどのようにして作ったのですか。

ぼくは祈り、聖文を読み、セミナーに出席し、毎週聖餐を取ることは

氏名——ゲルソン・サントス

年齢——17歳

居住地——ポルトガル、セトゥーバル

趣味——歌うこと、演技、ギター演奏、映画鑑賞、妹たちと一緒に踊ること、兄と一緒に作曲したり演奏したりすること、音楽学校で勉強すること

これまでどおり行っていました。現在、伝道に出る準備をしています。小さいころから伝道に出たかったんです。ワードではワードピアニストとワード宣教師、祭司定員会のビショップ補佐として奉仕しています。ほとんどすべての時間をコンテストのために費やすなければなりませんでしたが、何よりもまず、主のために時間をささげました。■

わたしたちのスペース

「パンダ……確認。
豚……確認。
ヤマアラシは、……」



絵／パリ・チャドウィック・バグレー

望みを失わないで

わたしの家族が堪え忍ばなければならなかった試練の一つは、いちばん上の兄が病気になり、その後亡くなってしまったことです。最初はほんとうにつらかったのですが、わたしたちはその試練を乗り越えることができました。わたしたち家族は神殿で結び固められているので、時が来れば兄と天の御父とイエス・キリストにまた会えることが分かっています。

この試練は、わたしたちをもっと強くしてほかの試練に備えるために主がお与えになった方法の一つだということが分かります。堪え忍ぶべき試練はだれにでもあります。天の御父はわたしたちがそれを克服できることを御存じです。ですから、望みを失ってはなりません。

カルミラ・R、18歳
(フィリピン、南タガログ)

清い思いを抱くには

思いをコントロールできる人は自分をコントロールできる人だと十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は言っています。¹ 思いをコントロールする方法の一つは、好きな賛美歌を選ぶことと神殿の写真を飾ることです。神殿の写真を寝室に飾りましょう。慎みのない服装をしている人を見かけたらいつでも、選んでおいた賛美歌をよく考えながら心の中で歌うか、または神殿のことを考えます。もしもふさわしくない思いが心から消えないなら、忘れられるよう祈り、断食してください。

ジョセフ・D、20歳(ハイチ)

注

1. ボイド・K・パッカー「価値ある音楽、価値ある思い」
『リアホナ』2008年4月号、31参照

規則が多すぎるでしょうか

ここ1年ほど、教会には規則が多すぎると思っていました。「これでは、天に楽しみなどあるのだろうか」と思ったものです。教会に束縛されているように感じ、自由になるのは無理だと思いました。

そんなとき、友人たちの生き方について考えました。友人たちが遭う試練の中に、わたしが遭わない試練があるのはなぜなのでしょうか。ある晩はつと気がつきました。わたしがそのようなトラブルに巻き込まれるのは、天の御父が定めてくださった規則に従っているからなのです。また、規則に従うならば、幸せになり、家庭を築き、天の御父とイエスと一緒に永遠に住むことができるということが分かりました。

ステファニー・H、13歳
(アメリカ合衆国、ユタ州)

体験談や写真、意見、感想をお寄せください。
liahona.lds.org にお寄せください。
または、liahona@ldschurch.org に
電子メールで送ってください。でもけっこうです。
電子メールの場合は、氏名、所属ワード/支部、
ステーク/地方部、および保護者の同意文
(電子メール可) を添えてください。
投稿は文字量により、
または明瞭な表現にするために
編集することがあります。





姉マナトの神殿結婚の日に
姉の結婚を祝うサアネ（右）と
アメリア（中央）

波にさらわれない

ガードレールが
大切な理由について、
トンガの10代の若者たちが
語ります。

マプアバエアのビデオやその他の写真は、liahona.lds.orgにアクセスしてください。

純潔に関するビデオ（英語）は、lds.org/youth/video/chastity-what-are-the-limits?にアクセスしてください。

ト　ンガのマプアバエアの潮吹き穴の美しさと豪快さは驚異的です。トンガタブ島に4.8キロにわたって伸びるこの海岸線では、波が打ち寄せるとき、海水は火山岩に開いた無数の穴を通り抜け、18メートルも高く空中に吹き上がります。

16歳のサアネ・Fはこの場所の美しさを愛しています。波が打ち寄せる度に太陽の光と水しぶきが躍る様子がとてもきれいなのです。

しかし、自然の力は美しいと同時に危険をはらんでいます。好奇心から、またはスリルを求めて海辺に近づく観光客がいます。中には近づきすぎて不意に波の力に捕らえられ、潮の流

れに抵抗できずに海にのみ込まれてしまつた人もいます。

マプアバエアの危険な側面は、誘惑の力、特に性的な清さを損なおうとする誘惑に対する靈的な警告に似ています。生命を生み出す力は適切な境界線を守るときには美しいのですが、安全な場所から誘い出そうとする誘惑に負けると、波にさらわれてしまう危険性があります。

純潔がなぜ大切なのか理解する

サアネの姉がトンガ・スクアロファ神殿で結婚した日、姉が幸せに満ちていることがサアネには分かりました。「そんな姉を見て、自分もいつの日か神殿で結婚するために、ふさわしさを保とう



と思いました」とサアネは言います。

しかしサタンは、そんな望みがかなうことがないよう、わたしたち皆を誘惑しようとします。サタンはすでに、結婚という枠を越えて性的な関係を持つことには何の問題もなく、何の不都合も生じないと多くの人を信じ込ませています。しかし、生命を生み出すために神がお与えになった力を誤って使うことは、靈も精神も肉体も傷つける重大な罪です。¹

「サタンはわたしたちが天の御父のみもとに帰れなくなるようにしようと躍起になっています。純潔の律法を注意して守っていないと、神殿で結婚する機会を失ってしまうかもしれません」とサアネは言います。

神が設けられたガードレールを大切にする

観光客がマプアバエアの美しさを安全に楽しめるよう、トンガ政府は何か所かにガードレールを設置しています。

サアネは、わたしたちが誘惑に陥らないように、標準というガードレールを天の御父が備えてくださったと信じています。教会の指導者も聖典も、『若人の強さのために』も皆、はつきりとした境界を設けており、その内側にいれば安全なのです。そして何よりも、

聖霊の促しに従っていれば、安全な場所にいることができます。

「主のガードレールを無視する人もいます。そのような人たちはどういう結果になるのか理解していないか、悪い結果を避けることができると考えておりのです。崖から飛び降りるのは空を飛ぶような感覚かもしれませんが、必ず地面に落ちます。」

自分のガードレールを決める

性的な清さについて言えば、ガードレールからどれだけ身を乗り出せるか試そうとすれば、必ず転落するでしょう。不適切な性的関係をすると続けると、誘惑に打ち勝つのはますます難しくなっていきます。

個々の状況についてどうしたらいいか教会で詳しく教えてもらうわけにいきませんから、サアネは自分なりのガードレールを作りました。遭遇しそうな場面を考え、そんな場合に福音の原則をどう適用すればいいか前もって決めておいたのです。

自分と天の御父に対する9つの約束を書いたポスターを作りました。どんな人とデートするか、どんな服装をするか、どんな言葉遣いをするなど、自分のガードレールとなる行動を書き出したのです。ほかには、性的な欲望をかき立てるようなものを見聞

きしたり読んだりしないようにする方法を定めたガードレールなども作れるかもしれません。²

「標準を高く設定しておくと安全です」とサアネは言います。

安全な場所に戻る

マプアバエアの荒波にさらわれた人のように、誘惑に屈した人は危険な状況にあります。性的な罪の強い力に捕らえられると、逃れるのが難しくなることがあります。でも、救い主とその僕の助けがあれば、逃れることができます。

結局、安全な場所から離れなかつた人にとっても、苦労して戻って来た人にとっても、目指すゴールは安全な場所にとどまることです。主のガードレールを大切にし、個々の状況にどう当てはめるのかを理解していれば、神が与えてくださったすばらしい力をふさわしいときにふさわしい方法で使うことができるよう準備ができるのです。

「ほかの何よりも神殿結婚するのを楽しみにしているんです」とサアネは言います。「純潔の律法も含めて、戒めを守っていれば、夢見ているこの祝福を受けるにふさわしくなれることを知っています。」■

注

1.『真理を守る』98～99 参照

2.『真理を守る』100 参照

日の栄えでの喜びをかいま見る

「将来神殿で結婚できるようにしてください。……〔それ〕ほど幸せな経験も神聖な瞬間もほかにはありません。そのとき皆さんは日の栄えでの喜びをかいま見るのです。気をつけてください。誘惑に屈してこの祝福を失ってはなりません。」

トーマス・S・モンソン大管長「模範になりなさい」「リアホナ」2005年5月号、113



水のない フォント

フォントに入る
水がないというのに、
どうやってバプテスマを
施せばいいのでしょうか。

シオサイア・ナエアタ・ジュニア

西 アフリカのシエラレオネのフリータウンにいたときのことです。雨の降る8月のある日、時刻は午前7時45分でした。わたしたち（フリータウンディストリクトの専任宣教師）にはバプテスマ会の予定があり、天気に関係なく、バプテスマを施すつもりでいました。するとわたしたちのいた支部の会員のアリュー兄弟から電話がありました。でも、クリオ語という現地の言葉で早口でまくしたてたので、何を言っているのかまったく理解できませんでした。深呼吸してからゆっくりと話すようお願いしたところ、彼は深呼吸してからこう言いました。「ナエアタ長老、バプテスマフォントに入れる水がありません。すみません。水がないのです。」

電話してくれたことにお礼を言うと、ほかの長老たちにこの悪い知らせを伝えました。それでもなおこの神聖な儀式を行うにはどうしたらよいか、わたしたちはすぐに考え始めました。すると、メローという場所にある近くの山を登れば滝と池があるとアガマー長老が言いました。長老たちは皆、そこでバプテスマをしようというこ

とに合意し、許可を取りました。

その日の午前中にその山のふもとに皆集まつたのですが、いざ来てみると、どんなに過酷な登山になるかがありありと分かりました。しかし、決意を固めた一行は、ひるむことなく登り始めました。ぬれて滑りやすい山道を男性も女性も子供も皆、楽しくおしゃべりしながら登りました。少しずつ高い所に進んで行き、川を渡るため少し回り道をしました。

山道を歩くうちに雨脚が激しくなり、足取りが重くなる人もいたのですが、わたしたちは希望をもって進みました。それでも、険しい道はいつ果てるとも知れないように感じられました。そして、ついに目的地に到着しました。心の中は幸せでしたが、雨は容赦なく降りつけます。バプテスマの準備をしながら、大きなマンゴーの木の下で雨宿りをしました。

「主のみたまは火のごと燃え」を歌ってバプテスマ会を始めました（『贊

絵／アラン・ガーンズ



美歌』3番)。開会行事が終わると、バプテスマを施す場所に行きました。神聖な儀式をする場所は、水が滝となって流れ落ちる池でした。

父親が池に入り、息子を水の中に導き入れました。その途端に雨がやんだのです。雲間から太陽の光が注ぎ、^{みたま}池を照らしました。わたしたちは御靈を感じました。父親が息子にバプテスマを施し、夫が妻にバプテスマ

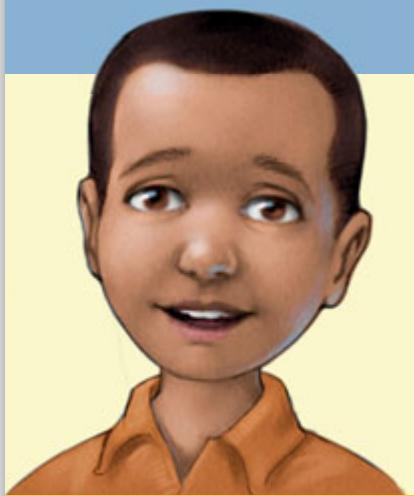
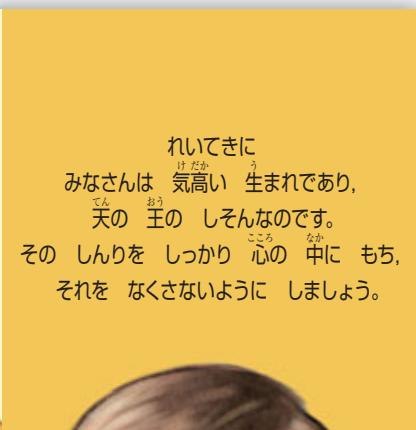
を施し、次に長老たちが求道者にバプテスマを施しました。太陽は輝き続け、わたしたちは満面に笑みをたたえていました。

バプテスマ会は「われに来よ」を歌って閉会しました(『贊美歌』66番)。歌詞のとおり、確かにわたしたちは主に従いました。救い主に従って山道を登り下りし、水かさの増した小川を渡り、ぬれた険しい山道を進みました。しかも雨の中を。そして、この日バプテスマを受けた人々は、バプテスマの水に入ることによって、まさしく救い主の模範に従ったのです。■



じゅうに
十二しとていいん会会長
かいかいりょう
ボイド・K・パッカー会長
かいじょう

てん ちち 天の おん父とは どなたのこと でしようか



すべての 人が
りょうしんの もはんに したがうように,
わたしたちが ちゅうじつで
いましめに じゅうじゅんで あるなら,
わたしたちも
天の おん父の すがたに にた ものに
せいちょうすることができます。



ぬ コンセントを抜く

アニメ・ビーアー

手もとにたくさんのおもしろいテクノロジーがあれば、そういうものに時間を使いすぎて、もっと大切なこと、例えば読書や屋外での遊び、家族や友だちと一緒に時間を過ごしたりすることに時間を割くことができなくなってしまいます。『リアホナ』の読者やその家族には、幸せで健全な家庭に聖靈が宿ることを理解し、バランスの取れた生活をしている人々がいます。

我が家では1週間の始めに6枚の「テレビ券」をもらいます。券1枚で1時間テレビを見る事ができます。券のうらには券を使う前にしなくてはならないことのリストが書かれています。そのリストには、例えれば、部屋をそうじする、宿題を済ませる、お手伝いをする



などがあります。テクノロジーをやすみなく使い続けるよりも、読書をしたり、一緒にゲームをしたり、友達と一緒に外で遊ぶほうが好きです。

トレバー、10才とニコレット、13才
(アメリカ合衆国、ユタ州)



すっとテレビを見ているより、読書をするほうが好きです。また、お手伝いを全部終わらせて、家がきれいになったあとでインターネットを使うことができます。コンピューターに時間を使いすぎないようにタイマーを使ってします。

エリー、8才、ジェレド、11才、イーサン、2才、アビー・H、6才
(アメリカ合衆国、カルifornia州)



わたしたちは聖典の物語や良い音楽をMP3プレーヤーにダウンロードしています。コンピューターはみんなに見える場所にあります。学校に行く前や学校から帰ったあと、宿題やお手伝いを済ませる前にテレビを見ることはできません。屋外で遊び、畑の手入れを手伝い、家族と一緒にボードゲームをしたりしています。生活の中にバランスがあれば家庭の中はさらに静かで平穏な場所になります。

サラ、8才、スティーブン、15才、クリスティ、20才、ジェーソン・L、18才
(オーストラリア・クイーンズランド)



わたしたちのページ

たがいに奉仕し合う



トーマス・S・モンソン大管長はわたしたちがほかの人にお仕するよう願っています。ある日曜日の午後、独り暮らしをしているわたしのおばあちゃんのところに行って、一緒にいてあげられるように一晩とまりたいと思いました。お母さんはとまつてもいいと言ってくれました。

おばあちゃんはわたしに会えたことにびっくりしていましたが、喜んでくれました。おばあちゃんとわたしはお話ししたり、軽食を作ったり、『リアホナ』と一緒に見たりしました。そして、おいのりして、ねました。

トーマス・S・モンソン大管長はわたしたちがほかの人にお仕するよう願っています。ある日曜日の午後、独り暮らしをしているわたし

のおばあちゃんのところに行って、一緒にいてあげられるように一晩とまりたいと思いました。お母さんはとまつてもいいと言ってくれました。

おばあちゃんはわたしに会えたことにびっくりしていましたが、喜んでくれました。おばあちゃんとわたしはお話ししたり、軽食を作ったり、『リアホナ』と一緒に見たりしました。そして、おいのりして、ねました。

かんがえ
すばらしい考え方

てん ちち め すがた
「天のおん父の目にはみなさんの姿が
はっきりと映っています。
おん父はみなさんを
愛しておられます。」

だいがんこうじゆかいだいに こもん かんとう
大管長会第二顧問 ディーター・F・ワークドルフ管長
2011年10月総大会から



今月の しょとうきょうかいの テーマについて もっと 学ぶために
この レッスンと かつどうを つかうと いいでしょう。

せいぎを えらぶと しゅくふくを うけます



ダニエルが 友だちと サッカーを していたとき、
ジョセフは ひとり 一人ぼっちで
すわって 見ていました。ジョセフは
サッカーが あまり とくいでは あ
りませんでした。でも ダニエルは

しあいに かつよりも ジョセフに
チームに 入って もらいたいと
思いました。ダニエルは ジョセフの
ところにかけよって「ほくたちと
いっしょに やらない?」と聞きました。

ダニエルは せいぎを えらびました。
天の お父さまと イエス・キリストは
せいぎを えらぶと しゅくふくを
うけると やくそく されました。
せいぶんには せいぎを えらんだ
もはんについて 書かれています。
ここに 二つの もはんが あります。

- ノアは しゅの めいじられたとおり はこぶねを つくりました。かれは かぞくを こうずいから すぐいました(創世6:8を見ましょう)。
- ニーファイが ゆみやを こわして しまったとき、あきらめてしまわずに 新しい ゆみやを 作りました。

かれの 父、リーハイが たすけを もとめて おいのりすると、
しゅは ニーファイを 食べもの
ある ばしょに みちびいて くだ
さいました(ニーファイ16:18を見
ましょう)。

時どき 正しいことを えらぶのが
むずかしいことがあります。しかし、
天の お父さまは わたしたちが 正
しいことを 行うとき、しゅくふくを
あたえて くださいます。わたしたち
が 正しい けつだんを するとき
こころの 中に へいあんと しあわ
せを かんじることができます。■

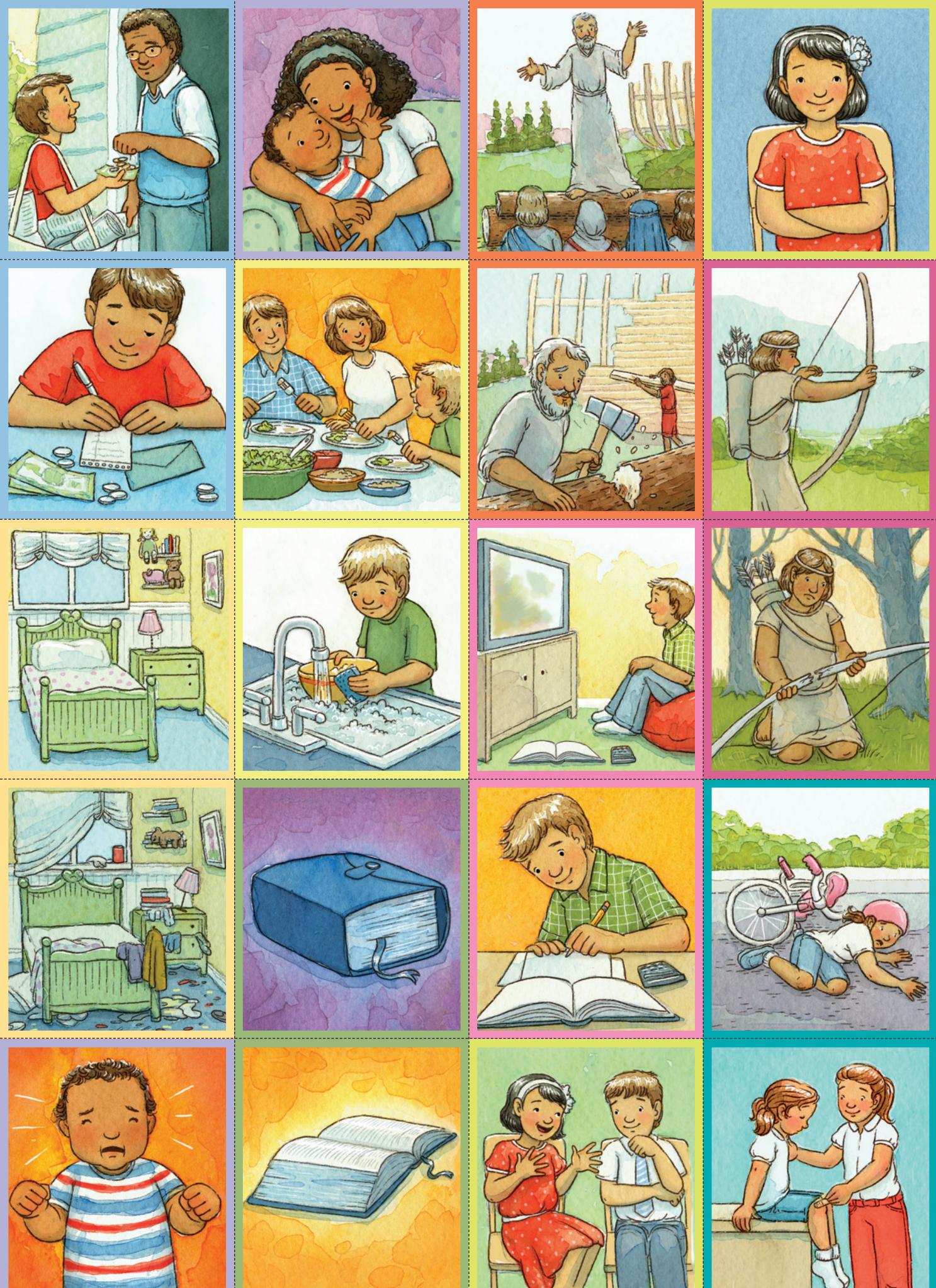
CTRゲーム

65ページを あつ紙に はります。かわいたら カードを 切りぬきます。ゲームをする人は、じゅんばんにペアになる 2まいの カードを 見つけます。1まいの カードは えらぶ ひつようの ある ばめんがかかれています。ペアになる カードには 正しいことを えらんだ ひとの 絵が かかれています。たとえば、はたらいで お金を もらった 男の子の 絵は じゅうぶんの一を はらっている 男の子の 絵とペアになります。

あそび方——カードを ばらばらにして うらがえしに ならべます。ゲームをする人は カードを 2まい 引きます。カードが 合えば また 2まい引くことが できます。カードが 合っていなければ、ひいた カードを ふせて つぎの 人に 回ります。小さい 子どもたちは カードを おもてに したまま 少ない カードで あそぶことが できます。

うた 歌と せいく

- モーサヤ 2:22
- 「選べ、正義を!」『さんびか』152番



あんぜん

安全のためのいのり

スエリ・デ・アキノ

じつわ 実話をもとに書かれました。

「信じていのる天の神様に
主はこたえてめぐみたもう。」
(「信じていのる」『子供の歌集』14)。

わたしは自然が大好きです。鳥のさえずりや、風に木の葉がかさかさとなる音、海の音を聞くのが好きです。ときどき時々わたしの家族は、ほかの家族と一緒に海辺に行きます。父親たちはバレーボールをし、母親たちはかさの下にすわって小さな子供たちと一緒に遊びます。

ある日の午後、海に着くとれしくてたまりませんでした。波が静かで、海岸線の辺りには小さな水たまりが所々にありました。わたしは水の方に走って行きました。わたしは魚のように泳いだり、貝がらを集めたりしたかったです。

「スエリ、そばをはなれないで!」とお母さんが大きなかさの日かげに小さい子供たちを集めながら言いました。

「分かったよ、お母さん。」わたしはつま先でぬれた砂をほりながら言いました。わたしは貝がらを探し、海岸沿いにある水たまりの中にいる小さな生き物を調べていました。水たまりの一つに飛びこんで水を飛ばしたとき、家族の方をふり返りました。遠くにかさが見えました。わたしは自分が遠くに来すぎてしまったことに気がつきました。海辺に向かって泳ごうとしましたが、



すでに潮が満ちてきました。
わたしが出ようすると、水たまりはどんどん深くなっていました。
わたしはつかれてきました。とても危険な状態にあることが分かっていました。わたしの考えられたのは、天のお父様の助けを得ることだけでした。
わたしは心の中でいのりました。いのり終えた途端、わたしはだれかにうでをつかまれ、安全な所まで引き上げられました。助けてくれたのは、父の友達でした。天のお父様がわたしのいのりにこたえて、わたしを助けるためにだれかを送ることで手を差しのべてくださいましたことに感謝しています。

次にわたしたちが海辺に行ったとき、わたしは家族のそばをはなれませんでした。それは、いのりを通して天のお父様の近くにいることができるのと同じです。■



わたしの天のお父様

このお話の中で、スエリは天のお父様が自分を守ってくださっていることが分かりました。天のお父様について、そのほかに大切なことを学ぶため、正しい言葉を選んで空所をうめましょう。

1. 神様はわたしの_____の父です
2. お父様はわたしを_____に送ってくださいました。
そこでわたしは体を頂き、学び、成長します。
3. お父様はわたしの_____とわたしのすべてを御存じです。
4. お父様はいつもわたしを愛し、わたしを_____守ってくださいます。
5. お父様は、わたしの_____を聞き、こたえてくださいます。
6. 独り子イエス・キリストを送って、福音を教え、_____を組織されました。
7. お父様は聖霊を送り、わたしをなぐさめ_____くださいます。
8. いましめを守るとき、わたしは再び天のお父様と一緒に_____ことができます。

すむ
きょうかい
教会

みちび
導いて
見

れい
いのり

ちじょう
じじょう
地上
なまえ
名前

幸せを運ぶバレンタイン!



バレンタイン・O (ケニヤ, ナイロビ)

きょうかい きかんし
教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

2月14日のバレンタインデー
は、世界中の多くの地で愛
の日として知られています。

でもあなたの名前が「バレンタイン」
だったらどうでしょう。毎日が愛の日
になるでしょうか。

ケニヤのナイロビに住む9歳のタイ
ンは、そのことをよく自覚しています。
みんなは彼女を「タイニー」と呼びま
すが、ほんとうの名前は、バレンタイン
です。

「2月14日に生まれたので、バレン

バレンタインは家族が大好きです。
そしてイエス・キリストについて学ぶことも大好きです。



「バレンタインと名付けられたんです」と彼女は話
してくれました。その名前にはじることのない
ように、みんなを愛そうと努力しています。
「バプテスマを受けたとき、わたしはイエス・
キリストの御名を受けました。それはつまり、
イエス様のようにわたしもだれにでも親切に

しなければいけないということだと思います」と彼女は言います。

「タインはどのようにして毎日を愛の日にしているのでしょうか。いろいろな方法があります。

「一つ目はおいのりです。わたしはイエス・キリストが大好きなので、御子をあたえてくださったことを天のお父様に感謝します。家族も大好きなので、家族をあたえてくださったことや、神殿を通して家族が一つになる方法をあたえてくださったことを、天のお父様に感謝します。次に、病気の人を祝福してくださいるように天のお父様にお願いします。天のお父様は病気の人も愛しておられることを知っているからです」とバレンタインは言っています。

タインの家族

タインは末っ子で、3人の兄と2人

の姉がいます。「ぼくが困ったときに、タインは助けてくれます。例えば、学校でペンをなくしたとき、タインが自分のペンを1本ぼくにくれたことがあります」と、タインの兄のジョージが言いました。姉のブレンダは、タインは人から注意されてもおこることはないと言っています。

家のなかで家族はスワヒリ語と英語で話します。みんな家庭の夕べが大好きです。「聖文を一緒に勉強したり、救い主について学んだりします。そして交代で家族のおいのりをします」とタインが話してくれました。

「親切にしたり、教会に行ったり、両親の言うことをよく聞いたりして、イエス様のようになれるようがんばっています」とタインは言います。■

タインについて

好きな歌

「ニーファイのように」
〔「子供の歌集」92〕

好きなこと

なわとび、料理を学ぶこと

好きな食べ物

好きな動物——サンドラという名の子犬。タインは野生動物にも関心

があります。「わたしたちの国^{くに}の首都であるナイ

ロビのとなりには、ア

フリカ最大の野生動物保護区の一つがあり

ます。そこにはあらゆる

種類の動物がたくさんいます。天のお父様が動物を愛しておられることを、わたしは知っています。動物は地球が造られる中で大切な創造物の一つでした。イエス・キリストは天地を創造された御方なので、イエス様も絶対動物を愛しておられると思います」とタインは言っています。



てんとう 天のお父さまへの いのり

チャド・E・ファレス

じつわを もとに 書かれました。

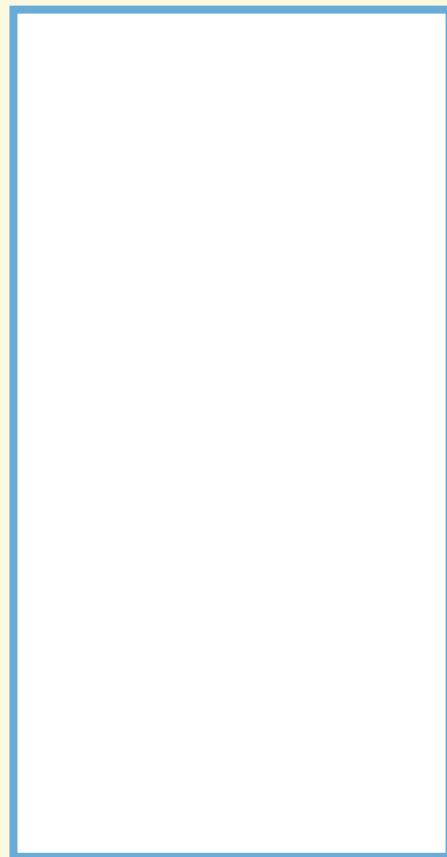
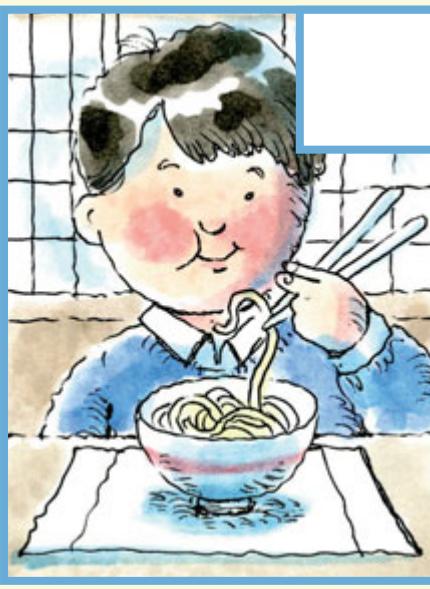
「あなたがたの かぞくの 中で、わたしの 名に よって つねに 父に いのりなさい。」(3ニーファイ 18:21)





てんとう 天のお父さまからの たくさんの中の しゅくふく

はるきは 天のお父さまから たくさんの しゅくふくを いただいています。あなたも 天のお父さまから 同じような しゅくふくを いただいているか。下の 絵の中から、あなたが 天のお父さまから いただいている しゅくふくを見つけて、右上の 四角の中に にこにこマークを かいてください。右下の 大きな 四角の中には、そのほかに あなたが いただいている しゅくふくを えがいてみましょう。



親の皆さんへ

自 分たちが天の御父から頂いている祝福を、子供と順番に挙げてみましょう。あなた自身にとって祈りがなぜ大切かを子供に話してください。



ニーファイは せいぎをえらんで、しゅくふくを うけました。

「あなたがたが かみの いましめを まもれば、かみは あなたがたを しゅくふくし、さかえさせて くださる。」
(モーサヤ 2:22)

教会のニュース

教会のニュースおよび出来事についてもっとお知りになりたい方は news.lds.org にアクセスしてください。

世界中の教員、預言者の勧告に従って 奉仕の日の活動に参加する

教会機関誌
メリッサ・メリル

20 11年4月、大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は教会福祉プログラム75周年を記念して奉仕の日の活動に参加するよう、全地域の教会ユニットに呼びかけた。この勧めは大管長会の公式の手紙として全ユニットに送られた。そこでアイリング管長は「主の方法で助けたいと願う」とき、また、人々から助けを受けたときに、自分が指針とする4つの原則を紹介した（「善を行う機会」『リアホナ』および2011年5月号、24）。

4月の大会以降世界中の会員は預言者の呼びかけに応じ、アイリング管長が述べた原則を次々に行動に移していく。

原則1——「すべての人は、自分と家族を養い、人々の世話ができるときに、より幸福であり、より自尊心を感じるものである。」

パナマ・デビッドステークは、奉仕の日に参加するようにという大管長会の勧めに応じてすぐにも奉仕活動に取りかかったステークの一つである。そのステークでは広く地域社会に呼びかけて、非常時の備え実践会を催した。4月に実施されたその催しでは、幾つかの公的団体の支援を受けて、家庭貯蔵、家計管理、非常時の備え、健康に関するテーマに添ってワークショップや実演を行った。

奉仕の日に参加したイツエル・バルデス・ゴンサレスは自分たちがこれらの原則を知っているだけでは十分ではないと言っている。知っている原則を分かち合うことによって、人々に奉仕することも大切である。

「他の人々に仕えることはイエス・キリストに従う者が備え持つべき重要な特質です。この催しは困っている人々を祝福するために教員が自分の時間や才能をささげる機会を提供するものです」

と彼女は語る。

原則2——「困っている人に仕るために手を携えて協力するとき、主はわたしたちの心を一つにしてくださる。」

タンザニア・アルシャ支部の会員はシャンガハウスで奉仕することにした。そこは障がいを持つ人々に職業訓練を施し、自分自身と家族の生計を立てるよう指導している施設である。

2011年8月20日、成人や青少年、子供を含む教員や求道者、宣教師から成る参加者35人が障がいを持つ人々と肩を並べて働き、販売される予定の手工芸品やアクセサリーなどを作成した。また参加者たちは洗濯や掃除など施設の雑用も手伝った。

一団が施設から出発しようとしたとき、シャンガハウスのコーディネーターが、奉仕を受けた人々がボランティアの人々と握手をしてお礼を言えるように施設の中央にあるホールに集まってほしいと言った。「とても感動的な経験でした」と、夫のリッチ・リダルフ長老とその地域で伝道しているサン德拉・リダルフ姉妹は語る。そのときからシャンガハウスの人々が街で支部の教員を見かけると、「すぐにわたしたちに気づいて、手を振って立ち止まりあいさつをしてくれます」とリダルフ姉妹は語る。

神権指導者の指示の下に支部のプロジェクトを組織したペイシェンス・ルイザ兄弟はその活動がシャンガハウスの人たちだけでなく、その奉仕を行った人たちにとっても有益であった点について語っている。「ほかの人々を助けることによって人を愛する気持ちがより強められたのです。奉仕活動をする中で、以前は知らなかった地域社会から様々なことを学びました。自分が行ったことを通し

あかして証が強められてきましたし、会員が参加する姿を目に見て、地域社会と一緒にになったように感じました」と彼は語る。

原則3——「自分と一緒に家族も参加させる……。そうすることで、ほかの人のことを思いやると同時に、家族として互いに思いやることができるようになる。」

ポルトガル・コインプラスステークの会員は奉仕が一度かぎりの活動ではないことを理解している。実際、当ステークは、モルモン・ヘルピングハンドが主催する活動の幾つかに毎年参加している。去年は公園を清掃したり、初等協会の子供たちを連れて、孤児院で暮らす子供たちを訪問したりした。こうした活動には家族全員で参加することが大切であるとコインプラスステーク広報ディレクターのアナベラ・ジョルダン・フェレイラは語る。

「わたしたちのプロジェクトでは、8か月の乳児から88歳の老人まで受け入れると言うことがあります。実際そうなんです。赤ん坊を抱えた母親や動作が不自由なおじいさんの姿も見られますが、彼らにも強い証があり、主に伝えたいと望んでいるのです」とジョルダン姉妹は語る。

原則4——「真理を見いだすときと同様に、貧しい人の世話をするときにも、主が聖靈を送ってください、『搜せ、そうすれば、見いだすであろう』という言葉が成就する……。」

ニューメキシコ州ファーミントンステークで高等評議員として働くマイケル・ハッチ兄弟はアイリング管長の呼びかけに応じるに当たってステークで奉仕の日を計画するよう割り当てを受けたとき、地元の地域社会で困っている人々に必要な物資を提供するには、どこで情報を得たらよいか思案した。そこでハッチ兄弟は評議会でその活動の委員と話し合いをした。委員たちやほかのステーク指導者

©2011 ロナルド・K・ホールセン



は地域で必要とされている事柄に関してステーク内の会員同士が情報交換するよう勧めた。

ロベルタ・ロジャースは自分が働く病院を含め、自治体関連の施設の幾つかが特に必要としている事柄について知っていた。衣料収集活動は通常古着のズボン、シャツ、靴、コートなどの役立つ寄付を集めているが、多くの慈善団体がさらに新品の靴下や下着、パジャマなどの寄付を求めている。ロジャーズ姉妹はそれらの物資の収集を計画するようにステークに提案した。

10月15日、ステークの会員はドアにかけておける丈夫なカード用紙を1,000枚、近所の人たちに配布した。そのカードはプロジェクトについて説明し地域の人々に参加を呼びかけるためのもので、必要な物資のリストが載せてあった。1週間後、ステークの会員は物資を集めるために再度訪問し、集めた物資をステークセンターに持ち寄った後、仕分けして地元の慈善団体10か所に配達した。

こうした協力体制のおかげで地元の地域社会の緊急性のある必要を満たすことができたとロジャーズ姉妹は語る。「これまでとは違った形で人々に手を差し伸べました。費用もほとんどかかりなかつたので、1家族がほんの数ドル支払うだけで、実際にだれかを助けることができたのです。」■

世界中の会員が
大管長会の
呼びかけに応じて
地域社会の
奉仕活動を計画し
参加した。

世界美術コンテスト、若人に才能の光を放つよう呼びかける

教義と聖約第115章4-6節で主は御自身の教会の民すべてに行動を起こすように呼びかけて、「立って光を放ち」彼らの「光がもろもろの国民のための旗となる」ように促しておられる。主は教員が一致協力してほかの人を助けることで「嵐の避け所」となるよう求めておられる。

主の求めに応じて、教会歴史博物館は教会の13歳から18歳の青少年に第1回青少年世界美術コンテストへの参加を呼びかけている。ここ数年、当博物館は成人会員を対象とした世界美術コンテストを開催してきたが、今後は、新たなコンテストで青少年にも同様の経験をする道が開けようとしている。

青少年は、主が求めておられる「立って光を放〔つ〕」ことが自分にとって何を意味するかを表現する芸術作品を制作するよう期

待されている。博物館では2012年1月2日月曜日から応募作品の受け付けを開始した。

「教会の青少年が、自らの芸術的才能についての理解力がどんなに不十分であるとしても、絵画や写真、彫刻といったごく素朴な作品がいかに人の心を感動させ、靈的な強さの深遠な源になるか驚嘆すべきものがあります。また青少年が自分たちの創造性を發揮してほかの人々の靈性を感化し高めるとき、自分自身の靈も鼓舞されるのです」と博物館で教育学芸員補佐を務めるアンジェラ・エイムズは語った。

コンテストに応募する作品は2009年1月1日以降に制作されたものに限る。応募者は各自の作品を2012年6月1日金曜日までにオンラインで提出できる。一人がコンテストに応募する作品は1点に限る。提出に関する情報や概要は lds.org/youthartcomp

に掲載されている。

コンテストではイラスト、絵画、写真、彫刻、金属細工、織物、装飾品、陶器などあらゆる芸術的な媒体や形式が歓迎される。コンテストの要項および要件によると、「世界各地の幅広い文化的および審美的な伝統が作品の中に表現されていること。象徴的かつ文学的な解釈による作品を歓迎する」となっている。

まもなくコンテストのウェブサイトでは「Your Creative Process(制作過程)」のコーナーで相互対話形式の動画がスタートする。若い芸術家が構想を練ったり、自分の構想を伝える様式を決めたりするうえで助けが必要なら、その動画を参考にできる。

様々な会員による2段階の審査を経て受賞者が選ばれると、作品の現物を博物館に送付するよう求められる。受賞者の作品は2012年11月16日から2013年6月17日まで開催される展示会で公開される。

展示される作品の中から上位20点が傑出した作品として認められ、メリット賞を受賞し、3点が来館者賞を受賞する。この賞は展示会終了が間近になってから与えられる。■



最新版ビデオで、モルモン書の物語が動画化される

Mルモン書の物語が最新版ビデオ『モルモン書ものがたり』で動画化されている。現在 LDS.org の聖典物語のコーナーで、広東語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、標準中国語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語で視聴できる。

もともとはスライドショーとしてオンラインで掲載されていたが、今回、画



像が動画化され、パララックスと呼ばれる技術を使った3次元立体映像となった。人物像が浮き上がって画面の背景上で動き回ったり、画像の平行移動やぼかし、ズームなどの技術によって視覚的な面白さが加わっている。

また当ビデオの特色として、その音響効果やオリジナルのサウンドトラックも挙げられる。

「これらの聖典物語は福音の真理を教えることによって、ビデオを見る子供やほかの人々の心に証の種をまくのに役立ちます。このビデオは福音を学ぶ機会を提供することで視聴者が定期的に聖典に親しむよう促し、

より深い聖文研究への備えとなるスキルを教えてくれます」と教会教育課程部聖典調整課のプロジェクトマネージャーであるブレント・メイシンジャーは語った。

刷新されたビデオの収録時間は3時間を超え、その内容は、「どのようにしてモルモン書を手に入れたのか」(1章)から「モルモン書の約束」(54章)まで54以上の多岐にわたる個別のエピソードで構成されている。

ビデオで使用されているアニメ画像はジェリー・トンプソンとロバート・T・バレットが制作したものである。二人による手書きの絵は1989年に始まって以来、ほぼ10年近くにわたってFriendと『リアホナ』に連載され、その後1997年には『モルモン書ものがたり』として出版された。

このビデオはiTunesのポッドキャストやYouTubeやRokuからも視聴することができる。家族はモルモンチャンネルの「Scripture Stories」(聖典の物語)プログラムを楽しむこともできる。この番組で、子供たちと司会者は物語を読み、その物語について話し合い、歌を歌い、聖典にある教えについて証を分かち合う。

さらにビデオ『新約聖書ものがたり』も最近、11言語で動画化された。それもLDS聖典ページ、iTunes、YouTubeのモルモンチャンネルなどで視聴できる。■

読むときに御靈を感じます

『リアホナ』制作に払われる努力に感謝しています。『リアホナ』を読むとき御靈を感じます。最近ディーター・F・ウークトドルフ管長のメッセージ「ダマスコに行く途中でとどまる」(『リアホナ』2011年5月号、70)を研究し、深く考えてきました。同誌に掲載されたこの記事やほかの記事は自分の弱さを改善し解決策を見いだす助けになりました。

エミネド・エドワード・アシャバ
(南アフリカ・ダーバン伝道部)

神からのメッセージ

『リアホナ』の中に、わたしは神が御自身の僕である生ける預言者や使徒を通して送ってくださったメッセージを見いだします。靈的な導きを求める人が誠意をもつてこの機関誌を研究するなら、送られたメッセージを容易に見つけられるでしょう。

マヌエル・デ・アラウジョ・フェルナンデス
(モサンビーク)

常に答えを見いだします

『リアホナ』によって天の御父とイエス・キリストがわたしたち一人一人を愛し、心にかけてくださっているという証が強められます。毎月この機関誌を読むとわくわくします。常に祈りに対する答えを見いだすからです。このような方法で主の御言葉を受け取る機会に感謝しています。

カルロッタ・A・ボントロス(フィリピン)

ご意見、ご感想を liahona@ldschurch.org までお寄せください。掲載されるお手紙は、紙面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。■

聖徒たち、初めてグルジア語で大会の話を聞く

2011年10月9日、聖徒35人から成る会衆が、初めて総大会を母国語であるグルジア語で視聴するために集まつた。10月まで、グルジアに住むおよそ50人の活発会員はロシア語、アルメニア語、英語のいずれかで大会を聞かなければならなかつた。しかしグルジア語しか話せない会員が多くいるため、グルジア語による通訳を実現することが重要な課題であった。

「トマス・S・モンソン大管長の話をグルジア語で聞くことができて、とてもうれしく思いました。母国語で大会の話を聞くと、これほど違った印象を受けるものなんですね」とリーラ・ツノビレイズは語っている。

フィリピンで台風被害に対応する教会

今年9月、フィリピンでおよそ20万人に被害を及ぼした二つの台風「ネーサット」と「ナルガエ」が去つた後、教会地域福祉部は早速パンパンガ

で配給する予定の米600袋を準備した。ともに奉仕に携わる非政府組織、サン・フェルナンド・パンパンガ大司教区のパンパンガ社会奉仕センターでは寄付された米の配給作業を行つた。

カトリックと末日聖徒のボランティアは協力して、提供された米を詰め直し、被災したパンパンガの352の村に配布した。

5度目の奉仕の日に参加するアフリカの会員

継続されて5年目の今年、アフリカの会員はアフリカの南東地域と西地域間合同で実施される「全アフリカ・モルモンヘルピングハンズの日」に参加した。毎年1日、これらの地域の会員は地元の地域社会で様々な奉仕活動を行つてゐる。今年の奉仕活動は2011年8月20日に行われた。このプロジェクトの幾つかに関する報告はnews.lds.orgで見ることができる。■

ナイジェリア・ラゴスの聖徒たちは8月20日の全アフリカヘルピングハンズの日に参加した。



写真／イバード・エバンス



写真／クレアグ・T・オルソン

バラード長老とジェンセン長老、メキシコの会員を訪れる

2011年9月10日、11日の週末に十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老と七十人会長会のジェイ・E・ジェンセン長老は、メキシコ・クエルナバカの会員と宣教師との集会を持った。バラード長老は、靈的な経験を通してメキシコの人々の心に福音を根付かせるよう会員に勧めた。「福音について靈的な承認を得るような経験をせずに、知性によって受け入れる傾向があまりに多くあります。靈的に深い改心をするには、教員が自らの知性で納得したことを、心に深く浸透させる必要があるのです」とバラード長老は語った。

オーツ長老とアンダーセン長老、ペルーとボリビアを訪れる

2011年8月、十二使徒定員会のダリン・H・オーツ長老とニール・L・アンダーセン長老は南アメリカのボリビアとペルーを訪れた。アンダーセン長老のメッセージには、世界中の人々が善惡の選択に苦悶しているということについての教えが込められていた。「死すべき世の事柄に関して決定を下すことは皆さんとまったく同様に



わたしにとっても難しいことです。わたしたちがこの世にあるのは信仰を用いてどのように生きていくかを学ぶためなのです」とアンダーセン長老は語った。

ヨーロッパでの責任を果たすベドナー長老

9月上旬、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、イングランド、ドイツ（この地でベドナー長老はおよそ40年前に専任宣教師として奉仕した）、デンマークの聖徒と集会を持った。それぞれの訪問先で、ベドナー長老はキリストの教義を教え、贖罪の力について強調した。また道徳的選択の自由の原則と個人の行いの責任について引き続き教えた。「道徳的な選択の自由があってこそ自立した行動ができるようになります。そしてわたしたちがイエス・キリストの教えに従ってふさわしく行動するとき、わたしたちの本質は主の贖い^{あがな}と聖霊の力によって変えられるのです」と長老は語った。■

これらの話に関してさらに詳しく知りたい方は、news.lds.orgにアクセスし、中央幹部の氏名と訪問先をキーワードにして検索してください。■

今月号には、家庭のタベで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

「御父に関する教義」20ページ——始めに、天の御父の本質について知っていることを分かち合うよう家族に頼みます。父なる神がどのような御方であるかについて述べられている各項目の要点をまとめながら、記事について話し合ってください。最後に、天の御父とその御子であるイエス・キリストの愛についての証を述べるのもよいでしょう。

「これは皆さんの業です」42ページ——まず「何ができるでしょうか?」の項目を読み、家族が家族歴史や神殿の業に取り組み始めるうえで助けになるアイデアを一つ選びます（lds.org/familyhistoryyouthも参照）。家庭のタベの間、家族とその記事を読んだ後、この重要な業に熱心に携わる人々に対してベック姉妹はどのような祝福を約束しているか尋ねます。家族で計画したアイデアを実行してください。その後の数週間、計画した事柄を継続するのもよいでしょう。

「主の深い懺悔み」48ページ——特別なクリスマスカードを受け取った若い家族の話とステーク内の青少年の名前を覚えた神権指導者の話を読みます。家族に主から受け

てきた優しい思いやりについて考えるように言います。次のように尋ねるとよいでしょう。「深い懺悔みとはどのようなものですか。だれが深い懺悔みを受けますか。受けた深い懺悔みに対してどのように感謝を示すことができますか。」これらの質問への答えについて、記事からベドナー長老はどのように答えているか調べるのもよいでしょう。

「コンセントを抜く」61ページ——メディアを健全に使用するためにこの子供たちと家族がしたことを読みます。家族がテレビやコンピューター、その他の「テレビを見る時間」について、いかに健全なバランスを保っているかについて話し合うのもよいでしょう。2011年10月の総大会で、七十人のアン・S・アルデルン長老は様々な技術を賢く用いることについて話しました。「これらがどれほど良いものであっても、そのために最も大切なものがわきに押しやられることがあつてはいけません。」（『用意をする時期』『リアホナ』2011年11月号、32）家庭を御壇の宿る場所にするために、この記事に登場する人々と同様の目標を立てるのもよいでしょう。■

月曜日の夜に行う日曜日のレッスン

毎週効果的な家庭のタベのレッスンを行いたいと心から願っていましたが、テーマを決めてレッスンを準備することはわたしにとっていつも困難なことでした。

ある月曜日わたしはレッスンの準備を忘れていましたことに気づきました。しかしそのとき、自分が初等協会の教師であるという見落としがちな祝福に思い当たったのです。わたしは最近5歳児を教える責任に召されていたので、前日にレッスンを一つ教えたばかりでした。日曜日に教えたことをより簡単に（子供の年齢に合わせて）家庭のタベで利用することにしました。その月曜日の夜は従順について話ましたが、前日初等協会で分かち合った3つの話をもう一度話しました。

初等教会のレッスンを自分の家族に応用することは、毎週よく準備された効果的な家庭のタベを開くという目標を達成するうえで、これまでばららしい方法となっています。■

クリスティーナ・シャーウッド（アメリカ合衆国、アリゾナ州）

天の父母を敬い、 模範に従う

教会機関誌
スコット・バン・カンペン

前 七十人のダグラス・L・カリスター長老は「試しの生涯での目的の一つは、考えられるありとあらゆる方法で天の父母に似た者となることで、御二方のもとにあって安らぎを得る……ようになります」と語り、イエス・キリストの福音は模範から学ぶ福音であると説いています。わたしたちは模範に倣い、考え方も、話し方も、行いも、外見さえも似た者になろうとしているのです（アルマ5：14参照）。¹

グラフィックデザイナーとして、わたしは様々な顧客の求めに応じて、幾重にも異なる美術的な様式を駆使して仕事をしなければなりません。その際、一つのパターンを持っているととても役に立つことが分かりました。顧客が依頼事項や仕上がりに関する希望を事細かに伝えてはくれますが、わたしが心にイメージを描いておくと、仕事がしやすくなります。そのパターンがたとえ心に描いたものにすぎなくても、目標を絶えず思い起こすことができますし、途中でぶれることもありません。

同様にこの試しの生涯においても、指示だけでは必ずしも十分な情報の交換や新しい考え方の伝達はできません。天上の模範に従うには、心の目ではっきりとした場面やパターンを描く必要があるのではないかでしょうか。その結果として、自分が神の子であることを自覚し、神のもとに戻りたいと望むならば、神の模範に倣って生活し、神の資質を受け継ぎたいと努力することでしょう。²

思慮深い天の御父は、御自分の模範に従う真のひな形として、独り子をお遣わしになりました。救い主はこの世で御業を行われている間、人々を助けることに生涯をささげることで御父の御心を行われました。それと同じように、わたしたちも



わたしたちが
天上の
規範に従うには、
心の目でパターンを
見ることができれば
効果的です。
そこで
思慮深い天の御父は、
御自分に従う
真のひな形として
御子をお遣わしに
なりました。

御父と御子の模範に倣って、自分に与えられた賜物や才能、知恵を用いて人々に惜しみなく奉仕をします。奉仕することによってわたしたちは御父を崇めます。すると天の御父は、神の王国を築くためにわたしたちを召すことによってわたしたちを尊んでくださるのです。

グラフィックデザインと同様に人生においても、心の中にあったものが目に見え形になることがあります。わたしたちはほかの人の働きから学ぶことがよくあります。今でもよく覚えていますが、ワードの幹部書記に召されて、初めてわたしはビショップの面接のスケジュール表を完全に埋められないことがありました。しかし、ビショップはこう教えてくれました。それは主のなさることで、たとえわたしたちには分からなくてもその日だれがビショップと面接する必要があるかを主は御存じだというのです。確かにこの「問題」が生じたときには決まって電話が鳴るかだれかが立ち寄って、ビショップは時間があるか尋ねてきました。そしてビショップは靈感された指導力によって、そのための時間を取っていました。

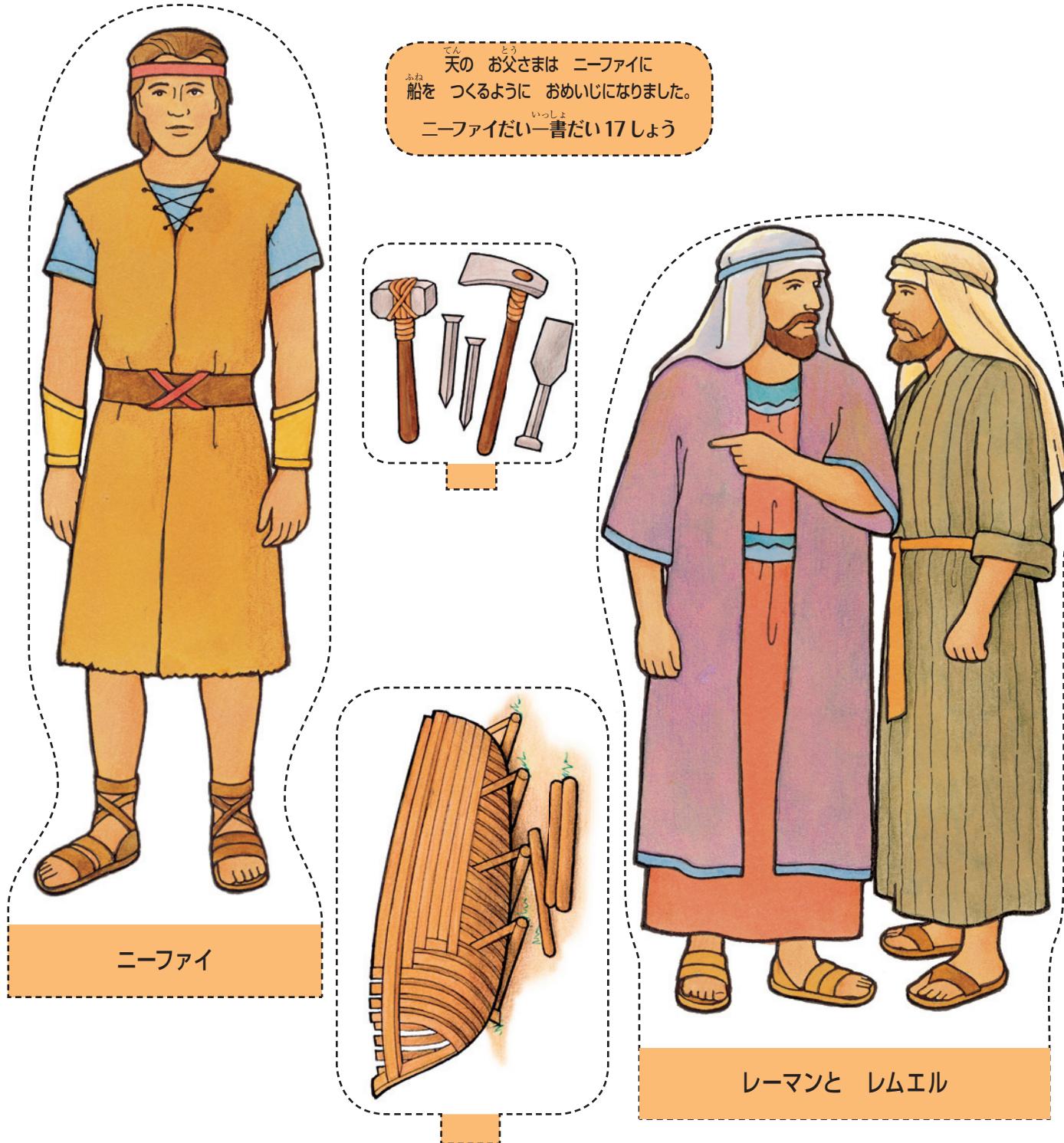
指導者のほかに、恵まれてわたしは両親の模範を通して、親切、勤勉、人助け、正直、高潔について学ぶことができました。二人は、両親を敬うことが神の模範に従うことにつながると教えてくれました。わたしはその模範に従ってきました。この世の両親の義にかなった模範は、天の御父の模範に通じるものです。また、両親を敬うことにより、再び天の御父と住むために必要な資質を身に付けることができます。さらに、わたしたちが子供たちの人生において義の模範を示すことによって、自分たちだけでなく永遠の家族を天の御父のもとに導くことができます。そうすることで神の計画を前進させるとともに、親としての神の模範に完璧に従うことができるのです。■

注

- ダグラス・L・カリスター「清らかな天の家」『リアホナ』2009年6月号、27参照
- シェリー・ジョンソン「良いイメージを与える」『聖徒の道』1984年6月号、10参照



年の『リアホナ』にはモルモン書にとうじょうするじんぶつなどの絵の
セットがたくさんもりこれます。きれいにのこしておくためとつかいややすくす
るために、それぞれの絵を切りぬき、ボール紙やあつ紙、小さな紙ぶくろ、
または工作用のぼうに、のりかテープではってください。ふうとうやふくろにそれを
セットにしてしまっておきましょう。そのとき、そのじんぶつなどがモルモン書のどこに
で出てくるかわかるようにラベルをはっておくとよいでしょう。





「わたしたちは、
永遠の父なる神と、
その御子イエス・キリストと、
聖靈とを信じる。」

信仰箇条1:1

